

1

2005年

組合広報

NO. 457

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

「環境との共生」をめざして



東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合 理事長 大村 功作

新年明けましておめでとうございます。平成 17 年の新春にあたり、皆々様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の日本列島は、台風の上陸が観測史上最多の 10 回を数え、10 月 23 日には新潟県中越地震が発生したほか、9 月に浅間山が噴火するなど、近年になく自然災害が多発し、各地に大きな被害をもたらした年でありました。

しかし、そうした中にも、アテネ・オリンピックでは日本代表選手が大活躍し、メダル獲得数は、過去最多を記録するという、明るい話題もありました。

一方、経済の動向をみますと、景気は、一昨年後半から持ち直しの動きを見せ、政府の景気判断では昨年の夏頃までは概ね回復基調で推移しました。民間エコノミストの間でも個人消費を中心に内需は堅調との見方が一般的だと伝えられてきたことはご案内のとおりです。

しかし、昨年の秋口には輸出が弱含みに転じ、鉱工業生産指数が 9 月、10 月に 2 ヶ月連続で低下したほか、景気動向指数の一致指数も 8 月～10 月に 3 ヶ月連続で 50%割れするなど、在庫・生産調整の始まりを示唆する動きがありました。加えて、年末にかけてドル安・円高や原油価格の高騰、更には多発した自然災害による消費への悪影響など、先行きへの懸念材料が種々出てきております。

私どもの業界におきましては、厳しい経営環境のもとで、産業空洞化の影響による受注量の大幅減少、発注元からの厳しいコストダウンの要請、技能の継承や人材の育成への取り組み、強化される一方の環境規制など、早急な対応を迫られている重要な課題が山積しております。

とりわけ、めっき業は環境負荷の大きい原材料を使用するため、環境問題には特段の配慮が必要であり、厳しい法規制が相次ぐ中で、事業経営の舵取りが大変難しい時代になってきています。

とくに、土壤汚染対策については、昨年の都議会本会議で再三にわたって取り上げられ、都から、低コスト・短期間で行なえる土壤汚染処理技術の開発促進、業界の実態を踏まえて環境確保条例を弾力的に運用することなどについて、前向きな答弁を得ることができました。

このことは、組合員の皆様のご支援のもと、正副理事長や、環境委員会及び環境プロ

ジェクトの各委員を中心に環境規制問題について真剣に検討を重ね、現実的かつ具体的な提案を関係方面に対して行ってきたことが実を結んだものと考えております。

とはいえ、問題が解決したわけではありません。排水規制については、ふっ素・ほう素等の暫定排水基準の適用が、昨年7月以降3年間延長されましたが、残る2年半の間に一律排水基準を守れる技術の開発と実用化を行政に要望するとともに、組合としても事態打開のために種々取り組みをしていく必要があります。

土壌汚染については、既に業界内でいくつかの深刻な事例が見られます。事業再建や円滑な転・廃業が困難な事態に直面しているケースには、法令の弾力的な運用を求めることのほか、更にどのような対策が可能か、真剣に検討していかなければなりません。

今日、地球規模で良好な環境を確保することは、人類共通のテーマとなっています。特に、人間の生命や健康の保持・増進は他の何よりも優先されるべき事柄と考えます。

このようなことから、当業界では、従前から環境に十分配慮し、有害物質を扱う事業場においては、製造工程における有害物質の排気・排水・廃棄物(空気・水・土)の管理の徹底を図るなど「環境との共生」に努めてきたところです。

私達は、環境確保に関する法や条例を時代の流れに逆行するような方向に見直すことを求めているわけではありません。私達めっき事業者が環境と共生しながら安定した経済活動を営み、モノづくりを支えていくことができるよう、法令の運用にあたっては業界や企業の実情に十分配慮していただきたいと願っているものです。

今後も、環境問題に取り組むにあたっては、具体的提案を積極的に行い、行政の特別な措置が講じられますよう、国や都などに業界をあげて強力に要請運動を展開してまいりたいと考えています。

新年を迎え、決意を新たに、当組合の運営方針の4つの柱、即ち、環境規制問題への対応、人材の育成・強化、処理技術の開発・促進と製品の高付加価値化、高度情報化の推進を組合の主要事業と位置づけ、一層精力的に推進を図り、希望に満ちた輝かしい年にしたいと思います。

あらためて申すまでもなく、東京は中小企業の集積する産業都市であり、中小企業の活性化なくして東京の発展はないと言っても、過言ではありません。

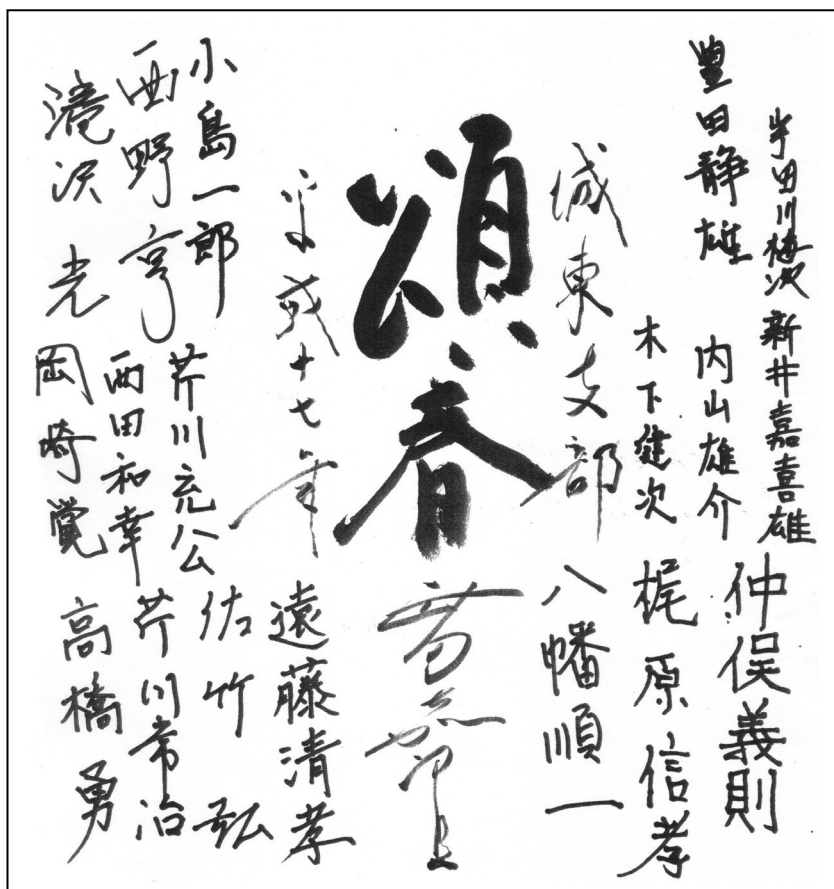
とりわけモノづくりに励む中小製造業の生き残りや再生は喫緊の課題であり、私どもめっき業界には、そのモノづくりを支えるという重要な社会的使命が課せられています。

そのような自覚のもとに、今年は「課題に挑戦し、着実に実行する組合」をめざして、組合執行部と組合員の皆様とが一丸となってめっき業界の発展のために努力し、貢献してまいりたいと考えております。

私は常々、組合運営に際し、“初心に返って、事にあたることが大切である”と考えています。新しい年、組合執行部一同は、組合員の皆様及び組合事務局職員とともに、組合諸事業の推進に、全力で取り組んでまいりますので、皆様には、なお一層のご支援、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

年頭にあたり、組合員の皆様のご多幸とご健勝を、心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年 城東支部



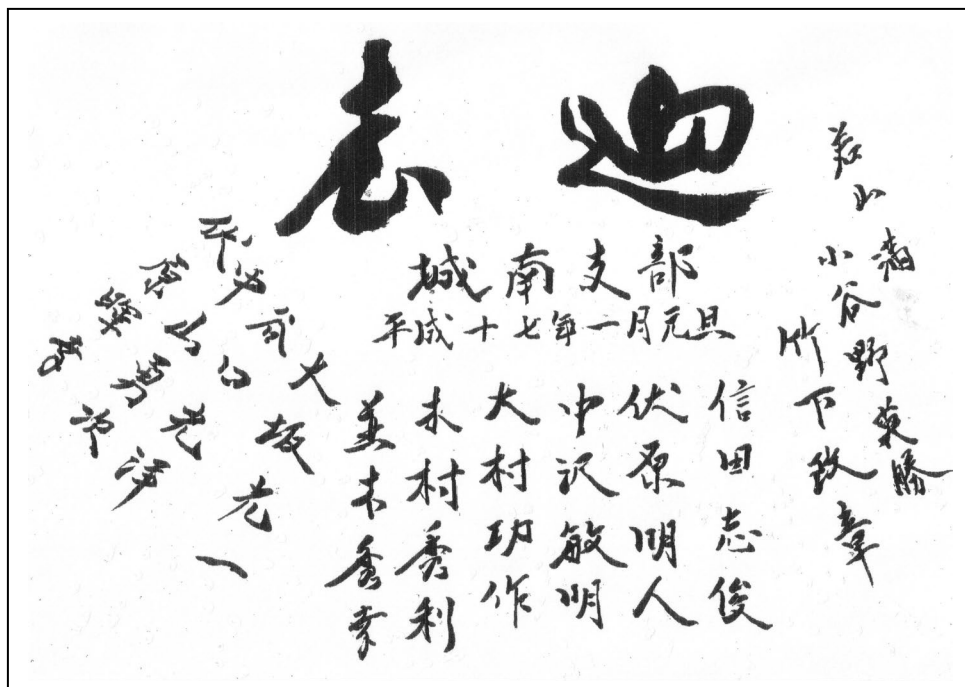
(第6回産業ときめきフェア(16.11.19~20)・城東支部展示)

謹賀新年 城西支部

平城十七年
城西支部
清口牛乳
板橋利次
福光下
石田義勝
小橋秀一
大野正悦
美内水田
山口司記
高木裕也
立井民夫
佐藤雄三
山田由子

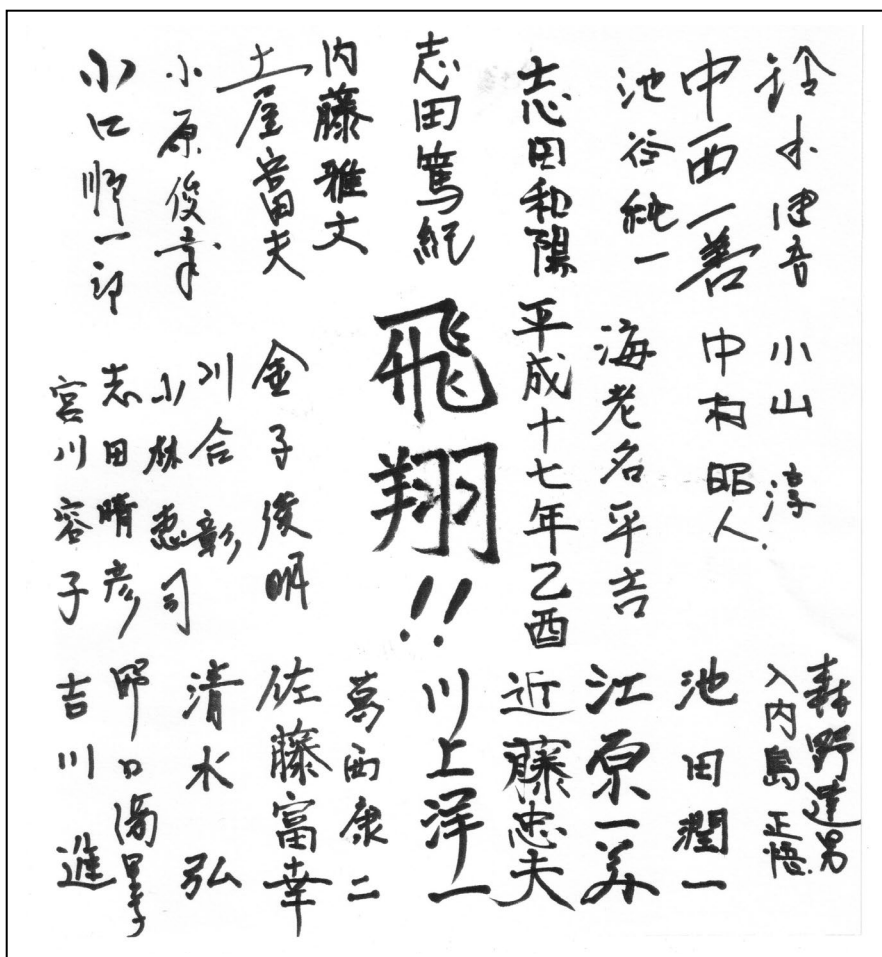
平威十七年
 城西支那
 元井民夫
 小橋秀一
 初春
 野藤
 日回
 光天
 光天
 光天

謹賀新年 城南支部



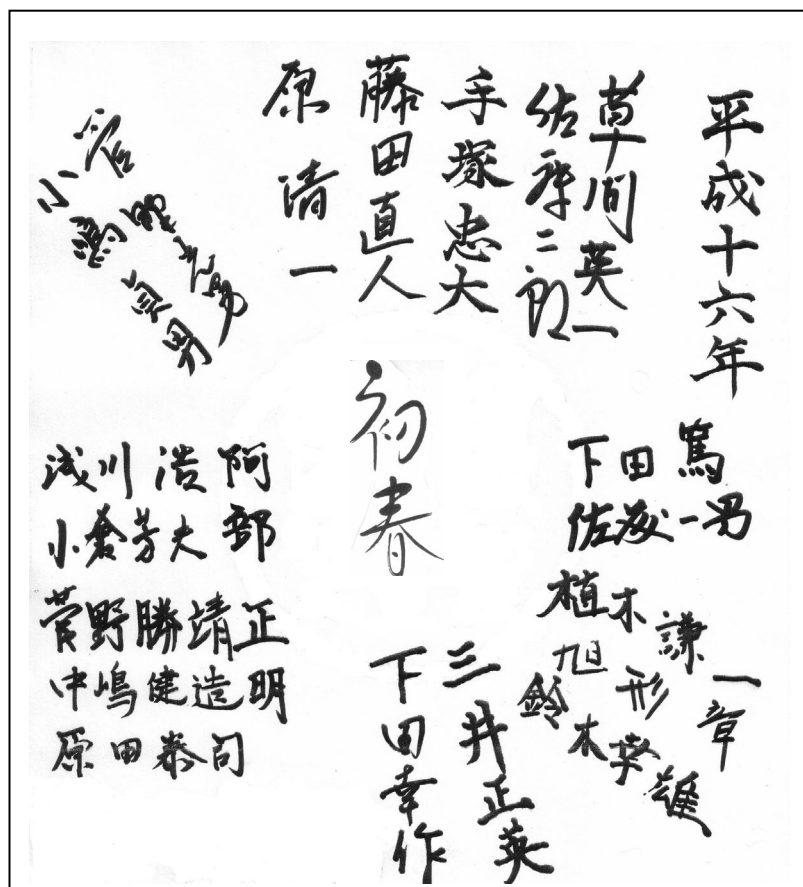
(木村秀利氏都知事表彰受賞祝賀会(16.11.26)において)

謹賀新年 大田支部



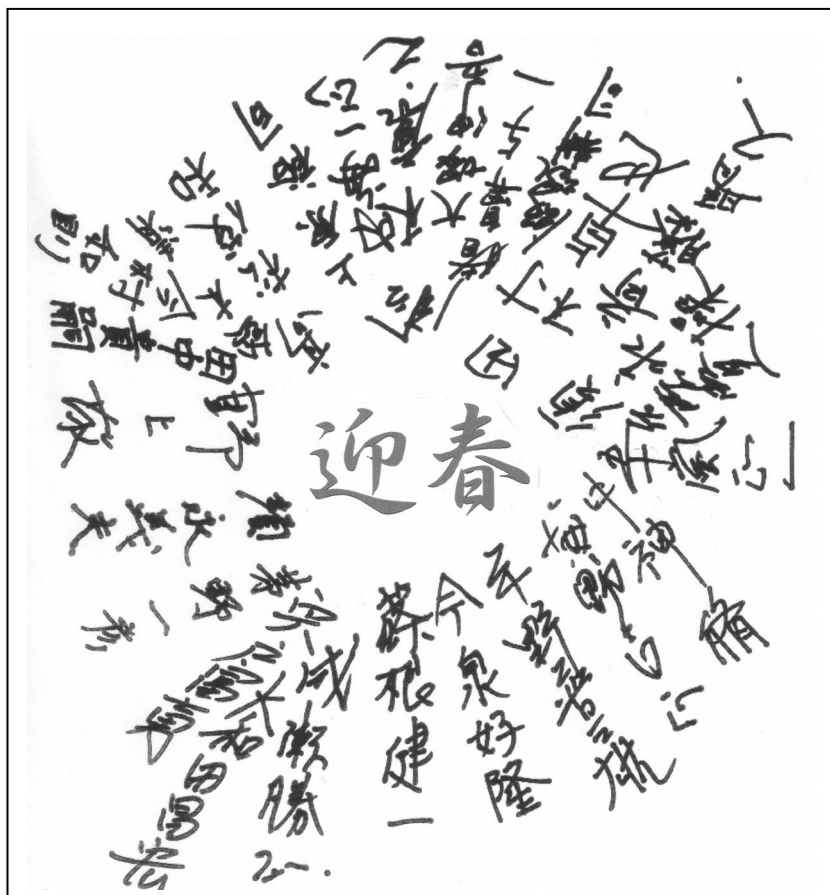
(1月7日組合本部新年賀詞交歓会において)

謹賀新年 品川支部



(1月7日組合本部新年賀詞交歓会において)

謹賀新年 城北支部



新年明けましておめでとうございます。

城北支部支部長 篠根 健一



景気はよくなった… 景気はよくなった…？ えー！ほんとに？

去年は、我々には実感の伴わない好景気…ほんの少し業況が改善しても、まだまだ水面下と厳しい1年が過ぎました。

今年も厳しい一年になりそう…厳しい、厳しいと、嘆いても事態は変わらない…

今年は自身が道を切り開いて行く…！そんな気概を持って進んで行きたい！

今年も頑張りましょう！！

謹賀新年 中央支部

慶春

元気の体 元気の仕事 小林 伸哉

消費者の気持ちになって 良品

を心がけ、社員一同

気持ちを一つに頑張ろう 岩本 製作所

一人でもがんばるぞ!! 新井 富保

今年も健康オー 堀米 清

杉忍 間部 健太郎

あけましておめでとう 今野 吉三

健康こそ財産 下平 誠

気合だ、気合だ、気合で元気! 長谷川 健治

感謝 小林 邦雄

暗いトンネルを抜けると雪国だった、岡田 栄治

初心忘るべからず

東松 不庵

目標をいつか立ち前道 石井 伸子

希望のもてる年でありたい 内山 弘一

品質の向上! 中村 建輝

2005年 新春 吉屋 昌孝

一步前進 鈴木 宏政



謹賀新年 徳竹 信夫

自己責任。野村 健

慎重に。小嶋 稔郎

今年は飛翔の時に 研徹 夫

自信はモーターの馬力を念頭に! 橋本 美

いつも笑顔で前向きに 堀江 清

栄光めざして前進しよう 伊藤 孝徳

支部員皆様の新年とご挨拶申し上げます。

1. 倉本 雄 ライクア ローリングストーン

ヨイキチ

飛翔は鳥のように大きくはばかろう!

山田 邦明

翔 たい 2005!!

鈴木 辰

鈴木 不利夫

2004年充電期間が終わり

「無能無才にしてこの一筋に繋がる」 田中 俊一

2005年は 勝負の年にしよう

斎藤 功

やるぞ! けやる

今野 正親

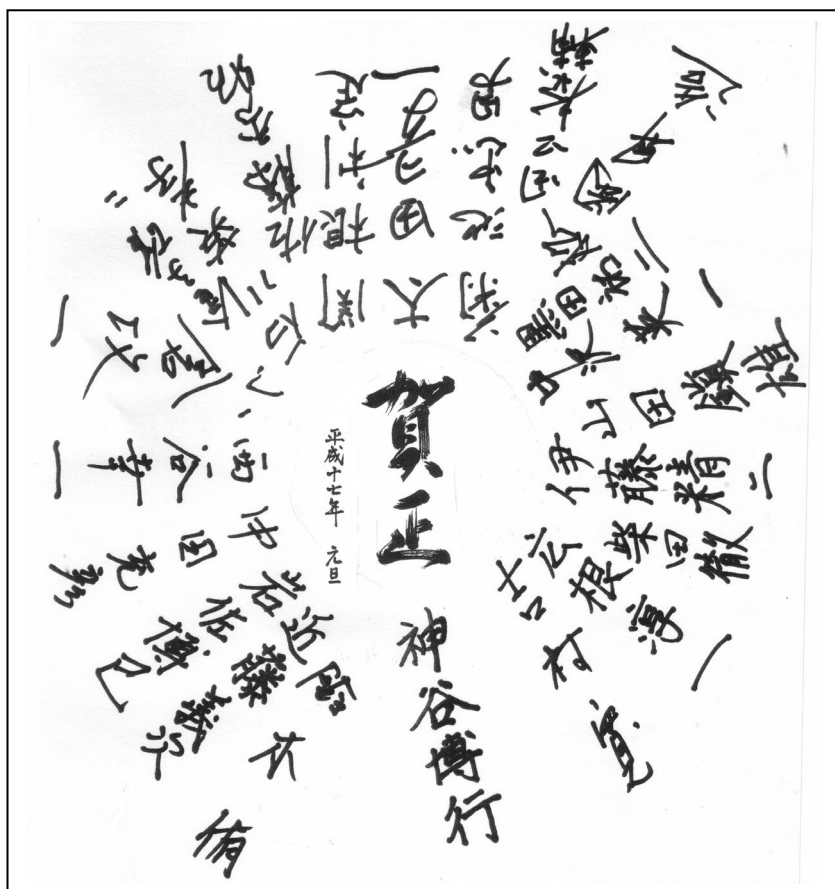
中央支部員一同

謹賀新年 足立支部



(あだち地場工業製品フェア(16.12.6～7)・足立支部展示)

謹賀新年 葛飾支部



平成17年 東京都鍍金工業組合 新年賀詞交歓会 東京鍍金公害防止協同組合



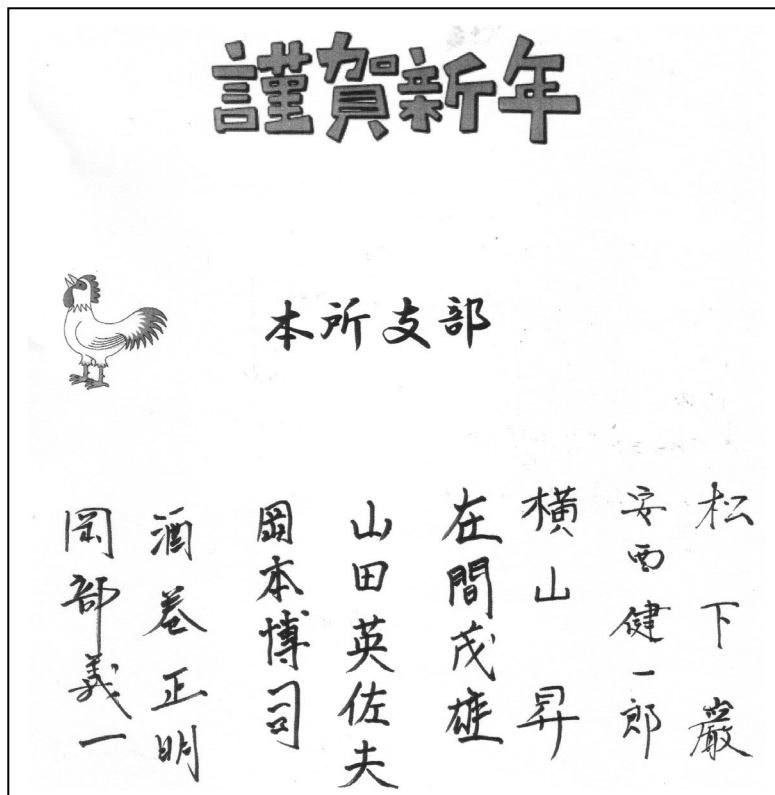
(1月7日組合本部新年賀詞交歓会において)

謹賀新年 向島支部



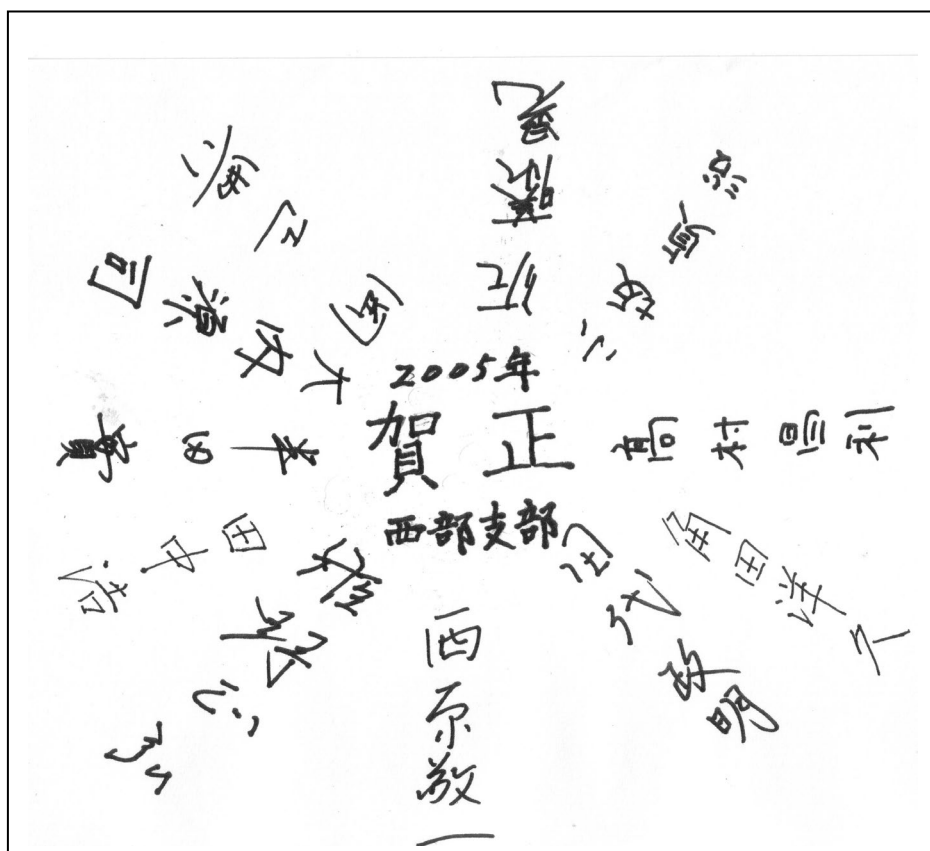
(1月7日組合本部新年賀詞交歓会において)

謹賀新年 本所支部



(1月7日組合本部新年賀詞交歓会において)

謹賀新年 西部支部



明けましておめでとうございます。

西部支部支部長 西原 敬一



明けましておめでとうございます。

威勢のいい鳴き声と共に 2005 年がスタートし、景気変動に光明を見出したかのような雰囲気を感じます。

しかし、不透明なベールが依然として我々の行く手をさえぎっています。期待と不安が交錯する中で、今年は自らの力で歩む道を発見する時です。みんなのパワーを 1 つにして前進しましょう。

東京の産業力を高める支援を

東京都産業労働局長 関谷 保夫



平成十七年の新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年の我が国の経済は、民間需要が主導する回復の動きが見受けられるようになり、東京においても、景況指数の改善や設備投資の増加などを背景に、緩やかながらも景気回復に向けた明るい兆しを感じられるようになってきました。

しかしながら、都内の企業倒産件数や失業率は、改善傾向にあるとはいえ依然として高水準で推移しており、楽観できないものとなっています。とりわけ中小企業の経営環境は、国際的な競争の激化や金融機関の不良債権処理の本格化等に伴う影響もあり、未だに厳しい状況が続いております。

東京には「巨大な市場」、「大学や研究機関など豊富な地域資源の集積」、「国際的な窓口としての機能」など、他の地域にはない優れた特性があります。こうした東京の優位性を最大限活かした施策を展開し、産業の競争力を高めていくことが重要な課題となっています。

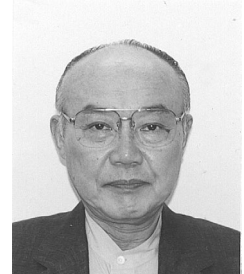
このため、都では、「東京の特性を活かした産業力の強化」を重要施策の戦略指針の一つに設定し、企業の経営基盤の強化、経営革新及び創業の促進に対する支援を行っております。また、将来にわたって東京の産業力を高めていくために、基盤技術関連など従来の分野はもとより、平成十七年度の重点事業として、ナノテクノロジー関連やアニメ・映像関連など、成長が期待される産業分野への支援をあわせて実施してまいります。中小企業の知的財産活用への取組に対しては、著作権活用に対する支援体制を強化するなど、支援策の一層の充実を図ってまいります。

さらに、中小企業の資金調達を円滑化するため、制度融資のさらなる利用促進に向け、わかり易く、使い易い制度となるように努めてまいります。また、都と金融機関との協調のもとに昨年設立したファンドを活用することで、ベンチャー企業や再生を図ろうとする中小企業に対し、資金と経営の両面から支援を行います。

東京の産業活力の担い手である皆様には、都の施策へのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍、ご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

環境問題アンケートのまとめ

(速報)



環境プロジェクト委員長 石川 進造

昨年末に、表題のアンケートを実施しましたところ、組合員の様から熱心なご回答を頂き、環境プロジェクト委員一同深く感謝をいたしております。

現在も集計中ですが、平成16年12月20日現在250件の回答が寄せられており、その概略についてご報告いたします。詳細については2月号に掲載する予定であります。

設問の中で最大の関心事は、当然のことながら**土壤汚染問題**でした。なかでも、土壤汚染の恐れや不安を抱いている工場が、250の回答のうち239工場を占め、心配が無いとする回答はわずかに10件を数えるのみでした。また、防止対策も手につかないとするものが181工場と大半で、準備中が39工場、対策が終わっているとした工場は20工場となっています。

汚染対策が既に終わっているとした20工場（回答をしている工場は団地化した工場と思われる）でも、土壤汚染の不安があると10工場が訴えております。このように、どのような形でも操業している工場は、常に不安感を抱いていることが読み取れます。いかに土壤汚染が深刻な問題であるか容易に理解できます。規制を行う行政は、この声を重く受け止めていただきたいものです。

土壤汚染を改良、または防止対策を進める上で、工場の一時移転や貸工場などの利用についての質問に対しては、29工場が改良・防止対策を進める上で考えると回答していますが、129工場が必要ないとしています。必要ないとの回答は、決して防止対策に後ろ向きなものではなく、設問の方法が悪かったものと思われる。

ですから、設問（その他）に書かれている60工場の回答と同じ理由であると考えられます。

移転費用の捻出困難や・先行きの営業不安からできないとするもの	14工場
工場の一時移転は不可能（設備の移転など物理的に不可能）とするもの	14工場
問題が大きすぎてわからない・理解できないとするもの	12工場
操業をする以上、土壤汚染は必ず起こり完全な汚染防止は不可能とするもの	2工場
廃業を視野に入れているとするもの	2工場

となっており、今後の行政の指導・規制のあり方によっては、組合員のおかれる状況が一段と厳しく（廃業問題を含めて）なる事が予想されます。

さらに、**土壌汚染防止対策法が法律制定以前の責任について遡及していること**に対して、**147工場がその不合理に対して行政と闘うことを望んでおります**。行政もこの声を深刻に受け止めて頂きたいと考えます。その反面、組合員は環境悪化に無関心でいるわけでは無く、土壌汚染防止技術に寄せる関心も深く**191工場が、組合主宰の『中身のある勉強会』**を求めています。

今回の速報では、紙面の都合から排水規制について触れることができませんが、2月号には排水規制に対する回答と、できる限りアンケートの全回答を載せるようにいたします。組合員の皆様には、設問の多いアンケートにもかかわらず、ご回答をいただいたことに重ねてお礼を申し上げます。

とくに、自由にお書きいただいたその他の項目は皆様の生の声で埋まり、余白にも皆様の悲痛な叫びがこもっておりました。書かれなかった方々にも同様なお考えでいるものと思われま

す。終わりにになりましたが、アンケートのまとめにご苦労いただいた組合事務局の皆様に深く感謝いたします。

水道料金減額措置の継続について

東京都水道局からこのほど東京都鍍金工業組合宛、めっき業に対する水道料金減額措置の継続について次のように通知をいただいた。

平成17年3月31日までの措置として実施していためっき業に対する水道料金の減額措置は、従来と同様の措置内容で下記のとおり継続して実施することとしましたので、ご通知申し上げます。

1.措置期間

平成17年1月1日から平成19年3月31日まで

2.減額措置の対象

めっき業を専業とする者の当該めっき業に係る施設

3.措置内容

1月当たり150m³を超える使用水量に係る従量料金に100分の105を乗じて得た額の10%を減額します。

4.申請手続き

減額の申請を受け付けた日の属する月分から適用します。

なお、平成16年12月31日現在、減額措置の適用を受けていた方は、平成17年1月1日をもって、申請を受け付けたものとして適用するため再申請は不要です。

照会先 サービス推進部業務課統計管理係 電話 5320-6426 都庁内線 48-631

「人」

連合青年部会会長 深田 稔



新年明けましておめでとうございます。

日頃は連合青年部会に対し、ご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、私の任期も今期で全うする事が出来、4月からはまた新会長が更に、この連合青年部会を盛り立ててくれる事と思います。

現在、墨田区は区内の企業の後継者育成のために、後継者ビジネススクール「すみだフロンティア塾」を昨年の4月から立ち上げました。その運営母体のお手伝いをさせていただく事になりまして、講師の選定やプログラムの作成等をさせていただいております。塾生の話を聞くと、業種に限らず中小零細企業は大変な時期であり、その会社を継いで発展させると言うことは並々ならぬとメッキ業界と何ら変わることがありません、

講師の方々も日本を代表する有名な経営者の方から、大学の教授まで様々な方々ですが、共通する部分がいくつかあるな、と気が付きました。それは一流と呼ばれる人は仕事を一流にこなし、人としても一流である、ということです。有名と言われてる学者、経営者の方でも、押し付けがましきは無く、我々のレベルに合わせわかりやすいようにレクチャーしてくれたり、決して自分の知識をひけらかしたり、人を馬鹿にしないと言うことです。

立派な経営者になるには品性と感性を持ち合わせる事が大切なことだ、と感じました。青年部の多くは親の経営のお手伝いになり、その甘えに気が付かないまま日々を過ごしている者が、私も含めまして多いのではないかと思います。しかし、幸運にも甘えていられる間に仕事を覚え、立派な経営者になれるよう、今から品性と感性を併せ持つよう努力することが急務だと痛感しております。

そして、立派な後継者を育成するには周りの理解とバックアップが必要だと思います。

次の次の世代のためにも、より一層連合青年部会にご理解とご協力をお願いしたいと思います。

皆様にとりまして、今年は更に幸福な年になりますよう祈念致します。

新年の抱負

葛飾支部青年部会会長 石川 英孝



新年あけましておめでとうございます。

今年の元日は曇りとの予報が年末にありました。大晦日には21年ぶりに雪となりました。しかし、明けてみれば例年通りの快晴での年明けとなりました。

元日の天気について少し調べてみたのですが、曇りや雨ということであれば2003年が曇り、雨ということであったならば1991年以来、何年かぶりの雨という事だったそうです。

昨年末より「経済状況は来年に向けて下降する」との発表も何度か聞いており、快晴での年明けとは相反して、景況は曇りのスタートといった感じです。

日本の経済、企業の状況に限らず昨年は地球規模での環境の異変が相次いだ年でもありました。我々の業界も排水、土壌の規制の締め付けが厳しくなり、益々廃業も倒産も出来ない状況になってしまいましたが、そんな中でもホウ素、フッ素の暫定基準の延長は明るいニュースであったと思います。しかし、これに胡坐をかいていられる状況でもないため、3年後には安価で簡単な処理方法を作らなければならないのも事実です。

また、EUへの輸出規制(RoHS 規制)も年末にかけて加速してきた感もあり、いろいろなことの重なりの中で生き残りが厳しくなってきたと実感いたします。

私事ですが昨年は海外に出れる機会が何度かあり日本以外のめっき業の現状も情報として収集できたことは大きな財産となりました。

欧州が2回、東南アジアが1回の計3回、各地を視察してきましたが、ハイテクな装置を持ちIT関連のめっきを忙しくやっている企業や手をかけて銀食器にきれいな装飾めっきを施す企業までいろいろな会社を見ました。

そんな中である欧州のめっき企業の社長(女性)が言った言葉がとても印象に残りました。それは「めっきは伝統を守るための手作業と効率化のための自動化の、バランスの取れた融合が大切」という言葉です。

私の会社も装飾めっきからスタートし現在では機能部品、電子部品とフィールドを広げてきましたが基本となる作業はあくまでもハンド(人)です。技能者(職人)が少なくなった今、とても希少な存在となっていますが、何とか「その人」の持つ技能を若手に継承し機械に負けない良い製品を作り上げることに頑張っています。

しかし、それでも機械に頼らなければならないことも多々あるのも事実です。そんな時、この言葉を思い出し、これから進むべき道の方向付けのベースとして持っていたいと思いました。

今年も何が起こるかまったく予想の付かない状況ですが、何が起こってもびくともしない確固たる基盤をつくり、業界の発展に尽くせればと思っております。

皆様にも今後一層のご指導をよろしくお願い申し上げ、新年の抱負とさせていただきます。

十日会の基本精神を受け継ぎ

十日会会長 斉藤 晴久



新年あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとって希望に満ちた幸多き年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、災害が多く、各被災地では大変な状況が続きました。現在も復旧に向け頑張られている方々の一刻も早い復旧と心の回復をお祈り致します。また、わが国経済は、地域による温度差が残るものの、次第に景気の底入れ感を強める状況となりました。そのような中で迎えた本年は、本格的に回復するかどうかの重要な時期であります。様々な判断材料から、引き続き気の抜けない環境にあると考えております。

そして鍍金業界における経営環境と言いますと、土壤汚染法の問題、新たな排水基準の制定、時代の要求としての環境保全への対応、製造拠点の海外移転、材料費高騰等により、よりいっそう厳しい状況であります。しかしながら、鍍金業が、あらゆる産業の基盤を支える産業であることからすれば、重要性・将来性において減じるところは全くないと考えます。時代の変化と要求に応えること、そして、応えられる体質強化に向けた取り組みを永続的に行っていくことが存続、繁栄して行く為に不可欠なことだと思います。

そのような時代背景の中、十日会の活動は、年6回の例会での講習会や、工場見学会などを開催し、また、日本鍍金協会の名古屋、大阪との交流を密にして地域別の情報交換も盛んに行っております。昨今、情報は様々な手段で入手できますが、実際に接して、感じて得る情報が一番生かせる情報であろうと考えておりますので、工場見学会や海外研修なども積極的に企画し、広い地域の関係諸団体との交流も密にし、五感で感じ得る生の情報収集が出来ればと考えております。

十日会には、「討論する、司会する、協力する」という基本精神が受け継がれております。今年もその精神をもとに会員同士で研鑽し、多くの人たちと協力し、より交流を深めながら、十日会活動を通じて、業界の推進力となり日本産業の興隆に寄与できれば幸いに存じます。

広報新春対談

大村理事長 環境問題等今年の課題を語る

昨年は、大手企業を中心に景気が持ち直したが、後半には色々な経済的要因から景気も踊り場にさしかかったといわれるようになり新しい年を迎えた。

東京都鍍金工業組合にとって、昨年は、ほう素、ふっ素等の暫定基準の延長が決まり一息つけたのも束の間、3年後の問題など業界には沢山の課題が山積している。

新春にあたり、東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合の大村功作理事長と木村秀利広報委員長に昨年の組合活動を振り返って頂くとともに、今年の組合運営の抱負、課題等について話し合っていた。

昨年の組合活動

木村委員長 明けましておめでとう御座います。本年も宜しく願います。新年を



(木村広報委員長)

迎えて昨年を振り返って頂くとともに今年の組合運営抱負をお聞きたいと思います。はじめに昨年の組合運営で特に印象に残ったことはありませんか。

大村理事長 おめでとうございます。本年もよろしく願います。特に象徴的なことが、昨年12月末までに組合員の脱退加



(大村理事長)

入が8減2増となっており、例年では年末に20社前後脱退しているにもかかわらず、今年度は大幅にしていることがあります。1つには土壌汚染問題が絡んで廃業届を出さないことがあるかもしれませんが、いまのところ例年より脱退が少なく、一応廃業が止まった形になっています。

昨年末、都議会自民党鍍金振興議連のお骨折りにより、下水道局長、産業労働局長、環境局長と懇談の機会をもつことが出来ました。我々が関係する主だった部局とは好意的な話し合いが出来て色々な要望を聞いて頂ける状況にあります。従来はお互いに構えて話し合いをしてきましたが、いまは真剣に討議できる雰囲気になっています。**木村委員長** ほう素ふっ素等の暫定基準の延長についても特筆されますが。

大村理事長 参議院予算委員会で討議されて延長が決まるとともに、討議の中で中川経産大臣が、めっき業は日本の産業を支える重要な産業であると発言され、めっき業の地位を認めて頂いたことと、処理技術が出来ない限り暫定基準を延長することが国会の場で話し合われ、処理技術が出来なければ暫定基準はなくならないと思っています。その処理技術もそれほどコストがかからず我々でも出来るものでなければなりません。スラッジが増えないなどの問題がクリアされて処理出来るのであれば我々も積極的にやらないといけませんが、現段階ではなかなか難しいと思っています。

たしかに組合員のみなさんが注意しているので違反率も減ってきていますが、まだ完全にクリアするところまで至っていません。その辺はやはり弱い企業を助けるのが組合活動であり、弱い事業所が1社でもあれば絶対見捨ててはいけないと思う。た

だしその企業も前向きでないといけない。前向きに一生懸命にやろうという企業であれば、どんな弱い企業でも助けて一緒にやっていこうということが組合事業であると思う。組合挙げて立ち向かっていかなければいけないと思います。

今年の組合活動の抱負

木村委員長 新年を迎えて今年の組合運営の抱負をお願いします。

大村理事長 決意を新たにし、当組合の運営方針の4つの柱、即ち 1)環境規制問題への取組み、2)人材の育成、3)技術開発と製品の高付加価値化、4)高度情報化の推進を組合の主要事業として位置付けて、その取組みによって明るい年にしたいと考えています。担当副理事長、委員長が頑張っていますので、それぞれの活動の成果を上げて頂けるものと思います。

木村委員長 めっき業界にとって一番の課題は環境問題ですが、今後の取組みはいかがですか。

大村理事長 21世紀になって環境との共生ということに重点を置いて、いかに環境に優しい取組みをしていくか。環境負荷に影響を与える薬品を数多く使っているの、色々な規制に対応して、全てを無害化して環境基準内におさめることがまだ難しい部分があると思うので、難しい部分を東京都なり、国なりに色々お願いして、我々も当然努力して1日も早く処理出来る形に持っていけるよう組合としても積極的に努力していきたいと考えています。

木村委員長 新しい規制物質の対応とともに、業界自らも環境対策を怠りなく進めるということですね。この環境問題への対応と今年の公害防止協同組合の運営について

お願いします。

大村理事長 環境問題を考えると、まず水質では重金属に対して国の法律では 50mg/日未満が適用除外されていますが、下水道法では下水道で重金属が処理できないということで規制されている。東京は殆どが下水道に入っています。ただ下水道の最終放流水のデータによると、それほど厳しく規制しなくともいいのではないかと思いますので下水道局にはもう少し柔軟な対応をお願いします。

特に亜鉛の規制強化の動きに対しては、亜鉛は人間にとって必須金属であり、味覚、人口問題を含めて人体になくてはならない重要な金属であり、食品にもわざわざ添加しているほどです。こうしたことを含めて積極的に働きかけていきたいと考えています。もう1つ、いままで水の問題ばかりやってきましたが、今年は地球規模の環境問題、特に水、土、空気、これは地球上の全てのものであり、我々もそれに対応していかなければいけない時代になってきていると思います。いままでの水だけでいいという考え方を捨て、大きな視野で環境問題を考えていかないといけないと思います。

公害防止協同組合はお蔭様で利益が上がりました。その要因として亜鉛めっきのノーシアン化により大量に廃液があったことと、公防協の企業努力により金属処理業者から廃液を頂いたことが主因になっています。公防協の処理施設も10年を経過してようやく借入金の半分ほど返済できました。これからは設備の老朽化の問題を視野に入れて、いかに利益を出していくか、また昨年建物もリニューアルしてきれいになりましたので、それを利用して、分析設備を整えとて、人も増やすなどして、いかに利

益を出していくかが今年の課題になります。

木村委員長 新しい事業展開を考えているのですか。

大村理事長 当然そうしたことも考えられますが、担当の間部副理事長はじめ運営委員会で検討して頂いています。

木村委員長 昨年半ばまで景気が回復し、暮れにかけて少しずつ後退していると政府は発表していますが、理事長はどう見えますか。

大村理事長 たしかに昨年は大企業を中心に景気が上向いてきたといわれますが、ここへ来てひずみが出ているのではないかと思います。特に材料不足、それに伴う仕事量の減少といったことが我々下請に大きく影響してきています。こういう状況下で景気見通しを聞かれるのは困りますが、景気はよくなってほしいと思いますが、当分こうした状況が続くのではないのでしょうか。いま材料不足で、鋼材はじめ金属材料がみんな中国へ行っている。それは仕事が中国へ行っているのと同じことです。今年はなんとか持ち直して明るい年になってほしいと思っています。

木村委員長 金属材料の品薄から材料価格も高値で推移していますが、材料が安定して我々にも仕事が増えてくるようになってほしいものです。今年も組合一丸となって困難な問題に立ち向かって明るい展望を開いていきたいと思います。理事長には強力なリーダーシップをお願いします。広報対談にご協力を頂きありがとうございます。

都議会公明党と懇談会

東京都鍍金工業組合は12月15日(水)午前11時30分から新宿モノリス29で都議会公明党議員と環境問題等について懇談会を開催した。

青木治郎専務理事の司会により、大村功作理事長は「21世紀は環境との共生ということで、業界も環境問題を解決しないと前に進まないと思う。ほう素ふっ素等の暫定基準延長では大変お世話になり感謝申し上げます。まだまだ安心出来る状態にはないが、我々が処理出来るまで暫定基準を継続して頂きたいと思う。さらに亜鉛の規制強化が懸念されているが、現状の5ppmでもかなり厳しい。国の基準では50m³未満/日は適用除外されているが、下水道は重金属が処理出来ないということで下水道法で規制されている。我々としては何としても現状維持として頂きたいと思う。まだまだ色々な問題があると思うが、ご支援をお願い申し上げます」と挨拶した。

都議会公明党石井義修幹事長は「大村理事長から話があったように、ほう素ふっ素の問題でお手伝いさせて頂いた。私どもは自公連立ということでお互い良い点は協調しながら、言うべきことははっきり言って、自民党と連携している。ただ今環境問題の話があったが、業界がここまで努力しているという姿がみえると私どもも活動しやすい。今日は懇談の機会を作って頂き感謝申し上げます」と挨拶した。

出席者の自己紹介のあと、大村理事長は、産技研が開発したクエン酸ニッケルの工場実験を行う。クエン酸は錯体を作りやすく排水処理が難しくなるのではないかと心配している。実験により早期に実用化の目途をつけてほしい。また、新しいめっきに対する需要先の評価の問題があり、行政サイドでもPRしてほしい。ほう素はニッケルめっきばかりでなく、色々なものに入って



おり、ニッケルのほう素が解決したからとって全て解決したことにはならない、などを説明した。続いて川上洋一副理事長は、ほう素ふっ素の処理の難しさ。海などの自然界にも存在することなどを説明、亜鉛の規制強化の動きなど環境問題について意見交換したあと、姫野正弘副理事長の閉会の辞をもって懇談会を終了した。

なお当日の出席者は次の通り(敬称略)

都議会公明党議員

幹事長	石井 義修
副幹事長	鈴木 貫太郎
副幹事長	友利 春久
政調会長代行	藤井 一
副政調会長	野上 純子
副政調会長	谷村 孝彦
公明党事務局	乾 栄三郎

東京都鍍金工業組合

理事長	大村 功作
副理事長	姫野 正弘
副理事長	由田 猛
副理事長	川上 洋一
副理事長	八幡 順一
工組専務理事	青木 治郎
協組専務理事	小原 俊幸

東鍍工組・公防協組

平成17年新年賀詞交歓会

東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合の平成17年新年賀詞交歓会は新しい企画として実行委員会を編成し各支部から組合員多数の出席を得て開催するとし、1月7日(金)午後6時30分から新宿の京王プラザホテルで来賓、組合員400名以上が出席して盛大に開催された。

平野普三雄常任理事(実行副委員長)の司会により、姫野正弘副理事長は「大変お忙しいなかを国会、都議会の先生方、関連業界から多数のご臨席を頂き、また実行委員の12支部長のお骨折りにより組合員300社以上のご出席を頂いて、盛大に開催できたことをお礼申し上げる」と開会の挨拶をした。

実行委員長の由田猛副理事長は「従来は本部と支部は別々に新年会を開催していたがこのたびは合同で開催することになり、総財務正副委員長並びに12支部

長が実行委員会となって準備を進めてきた。そして大勢のご来会を頂いてこのように盛大に開催できたことを感謝申し上げます。何分初めてのことで至らない点が多々あると思うが、ご容赦を頂きたい。この機会を有意義に、懇親を深めて頂きたい」と挨拶をした。

大村功作理事長は「あけましておめでとうございます。昨年は自然災害の多発した年であった。年末のインドネシア・スマトラ島沖地震と大津波の被害が連日新聞のトップニュースとなっている。また日本では台風が10回も上陸、浅間山の噴火、新潟県中越地震などの災害が続いた。一方明るいニュースでは、アテネオリンピックでメダルラッシュが続き、年末には紀宮様の御婚約発表、大晦日には東京にも雪が降り、これまでの暗いイメージを一新して真っ白になったところで新年を迎え、今年は良い年になるよう



に期待している。さて、経済状況を見ると、昨年前半、特に夏頃まで大企業が大変な利益を上げていると報じられ、景気回復がはかられるかにみえたが、年末になり輸出が弱含みになり、円高ドル安、また原油価格の暴騰、金属の高騰が暗い影を落とし、これからの景気の先行きが不透明になっている。私ども業界においても大変厳しい経済環境の中で、特に空洞化による受注難、コストダウン、さらに環境規制による環境問題への対応といったことが我々業界を苦しめている。特に環境問題については私どもめっき業は環境負荷の高い原材料を使っていることからこの環境問題の解決が難しい課題となっている。戦後 60 年経つが、そのうちの 30 年が水処理に関わっている。しかしながらまだ水処理が完全というところまで至っていない。加えて、新たに土壤汚染対策法による規制が施行されたが、私ども組合は 117 年になり、この 100 年にわたり汚染された土壤を短期間で解決することは恐らく不可能だと思う。昨年

は都議会において土壤汚染問題について討議を頂き、また我々がかかわっている関係部局に要望を聞いて頂き、話し合いをさせて頂いた。暮れには環境局、下水道局、産業労働局の 3 局長とも話し合いをさせて頂いた。これ偏に組合員の皆さんのご支援があったからと思っている。特に正副理事長、環境委員会、環境プロジェクトが中心となって積極的に環境問題と取り組んでいる。21 世紀は環境の時代であると言われている。我々めっき業も環境との共生ということで環境問題に前向きに取り組んでいく姿勢である。各種規制や法令に対してそれに逆らっていないとは思っていない。何とか守って健全な社会に貢献したいと思っているが、如何せん急激な規制や環境問題に対応するには、簡便な処理技術が開発されない限り難しい。我々業界としても努力していくが、各関係方面にお願いをし、ご支援をお願い申し上げる。本年組合は 4 つの事業を中心に運営している。1 つは環境問題への対応、2 つは人材の育成、3





(海老名顧問が乾杯音頭)

つは新技術の開発、4つは情報化の推進で、この4本柱を中心に組合運営を進めている。今年も何とか良い年になるよう役員一同頑張っているので、組合員の皆さんには尚一層のご支援ご協力をお願い申し上げる」と年頭の挨拶をした。

来賓として、小杉隆衆議院議員、前環境副大臣の加藤修一参議院議員、松原仁衆議院議員、東京都産業労働局商工部の市原博部長、都議会自民党鍍金振興議員連盟会長の大西秀男都議会議員(振興議連議員の紹介と共に挨拶)、都議会公明党の石井義修幹事長、鈴木貫太郎議員、野上純子議員、藤井一議員、都議会民主党幹事長代行の大塚隆朗議員、関係団体として全国鍍金工業組合連合会の笹野不二夫会長、日本鍍金材料協同組合の間宮勝理事長、埼玉県鍍金工業組合の吉田勇理事長から挨拶を頂き、小澤栄男常任理事が来賓紹介、川上洋一副理事長の閉会の辞をもって第一部式典を終了した。

第二部懇親会は、神谷博行理事の司会により、各界代表者が壇上にあがり、海老名平吉顧問の祝杯の発声で祝宴に入っ

た。池田敏則常任理事の祝電披露のあと、なごやかな歓談が続き、八幡順一副理事長の中締め、間部健太郎副理事長の閉宴の辞により懇親会を終了した。

姫野正弘氏黄綬褒章受章祝賀会

東京都鍍金工業組合及び東京鍍金公害防止協同組合副理事長・関東鍍金工業厚生年金基金理事長の姫野正弘氏は、平成16年秋の褒章において黄綬褒章受章の栄に浴された。この受章の喜びを皆様と共に祝したいと祝賀会が開催される。

発起人代表
 東京都鍍金工業組合理事長 大村 功作
 全国鍍金工業組合連合会会長 笹野不二夫
 東京都鍍金工業組合顧問 海老名平吉
 同顧問 草間 英一
 同副理事長 由田 猛
 同副理事長 川上 洋一
 同副理事長 間部健太郎
 同副理事長 八幡 順一
 元讀賣巨人軍 日本テレビプロ野球解説者 中畑 清
 日 時 平成17年3月4日(金)
 受付午後12時より
 受章祝賀会午後12時30分から午後3時30分
 場 所 京王プラザホテル

第4回広報委員会

東京都鍍金工業組合広報委員会(木村秀利委員長)は12月7日(火)午後6時30分から新宿の「志苑」で忘年会を兼ねて第4回委員会を開催した。

来賓として、由田猛副理事長、川上洋一副理事長、間部健太郎副理事長、青木治郎工組専務理事、小原俊幸協組専務理事、担当の姫野正弘副理事長、木村秀利委員長、半田實副委員長、神谷博行副委員長、内山雄介委員、溝口昌範委員、藤田直人委員、石川貞行委員、上原裕司委員、堀江清委員、籠利達郎委員、野田光昭委員、岡正典委員が出席した。

はじめに木村委員長が、去る11月26日の都知事表彰受賞祝賀会への出席並びに記念品贈呈に対するのお礼と、新年号「支部のページ」への協力をお願いした。

姫野副理事長は「早いもので今年も忘年会となった。今年もいろいろなことがあったが、広報委員会は委員みなさんの協力で無事過ごすことができた。私ごとだが、み

なさんのご支援により昨秋、黄綬褒章を頂いた。組合みなさんを代表して頂けたものと思うが、3月4日に祝賀会を開催して頂けるということで感謝申し上げる。今日は来年の表紙色を決めるが、黄色は縁起が良く、景気も良くなるということで黄色がいいのではないかという話が出ている」と挨拶した。

半田副委員長は「このビルに初めて来たが、駅から帰宅途中のサラリーマンを分けながら歩いてきたが、入口が分からず迷ってしまった。今年最後の委員会であるが、来年の広報表紙は黄色ということで来年佳い年を迎えるようにしたい」と挨拶した。

議事に入り、来年の広報表紙を黄色に決めるとともに、12月号の校正刷りにより内容を検討、1月号2月号を台割により掲載内容を検討。神谷副委員長が「今年は合同新年会の副実行委員長、理事長選考委員会の副委員長などフクのつく役職が多かったので良いことがあるのかと思う」と閉会の挨拶。引き続き、由田副理事長の乾杯音頭で忘年会に移った。



2月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	火	広報委員会		城東支部	
2	水	正副理事長会・理事会	大田支部	城北支部	
3	木	環境委員会		中央支部	
4	金		品川支部・大田支部	葛飾支部	
5	土	訓練校技能照査実技			
6	日				
7	月			目黒・世田谷地区	
8	火	監事会	城南支部		
9	水		城西支部	足立支部	
10	木		城西支部・城北支部	西部支部	
11	金	建国記念の日			
12	土				
13	日				
14	月			品川地区	
15	火		中央支部・本所支部	向島支部	
16	水			本所支部	
17	木		向島支部		
18	金			葛飾支部	
19	土				
20	日				
21	月		西部支部	蒲田・大森地区	
22	火		城東支部・葛飾支部	城西支部	
23	水				
24	木		葛飾支部		
25	金			葛飾支部	
26	土				
27	日				
28	月		足立支部		

(役員会、委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

2月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
1	火	A	原価管理② (生産工学概論)	加工高向上対策、標準原価算定法、価値分析等。 平和工業株 内藤 雅文
		B	生産管理 (生産工学概論)	ニッケルめっきのめっき時間と膜厚、技能照査実技試験の実施方法の補足説明 環研 長嶋 政人
4	金	A	皮膜試験① (めっき法)	試験の概要、皮膜の外観、耐食性、厚さ、密着性等。 東京都立多摩中小企業振興センター 水元 和成
		C	皮膜試験② (めっき法)	耐久試験及び密着性試験の種類、特長、方法、選択、耐磨耗性試験等。 東京都立多摩中小企業振興センター 水元 和成
5	土	1 日	技能照査実技試験	別途実施要領による 東京都鍍金工業組合教育委員会、環研
8	火	A	機器分析① (排水分析)	排水分析に関する機器分析。技能照査学科説明。 【定期試験④】 高等職業訓練校 神戸 徳蔵
		C	実技(応用1)	各班によるテストピースの作製。 東京都立産業技術研究所 土井 正、環研
15	火	A	機器分析② (排水分析)	排水分析に関する機器分析 【技能照査学科試験】 高等職業訓練校 神戸 徳蔵
		C	実技(応用2)	各班によるテストピースの作製。 東京都立多摩中小企業振興センター 水元 和成 環研
18	金	A	廃液処理 (廃水処理)	熱加水分解法による濃厚シアン廃液処理方法。 (株)アクアテック 大西彬總
		C	実技(応用3)	各班によるテストピースの作製。 東京都立産業技術研究所 吉本圭子 環研
22	火	A	めっきの原価管理 (特別講演)	パソコンを利用しためっきの原価計算方法 (株)東電工舎 山田英佐夫
		C	実技(基本1)	各班毎に各種の試験及び測定。 東京都立多摩中小企業振興センター 水元 和成 環研
25	金	A	めっきの不良対策 (特別講演)	各種めっき液の不良対策の方法について 高等職業訓練校 神戸徳蔵
		C	実技(基本2)	めっき厚さ(顕微鏡)、熱衝撃試験等。 東京都立産業技術研究所 土井 正、環研

※聴講料は1科目クーポン券3枚、または7500円です。

東鍍工組高等職訓校第 36 期訓練生募集

本校の特色

1. 職業能力開発促進法に基づく「めっき技術者養成」の全国初の認定職業訓練校で、専門教育訓練機関として、永い歴史と伝統があります。
2. 基礎実技から専攻実技へと最大限の「実技教育訓練」を取り入れています。
3. ものづくり現場での実務知識や経験を持つ優れた講師陣が、基礎から応用まで、懇切丁寧に指導します。
4. 本校の教育訓練は“現場での即戦力養成”がモットー。本校での授業は業界で必要とされる各種資格取得への道が開かれています。
5. 授業では教科書、教材をはじめビデオ、OHP等の視覚教材を可能な限り活用し、教育訓練効果の向上を図っています。

取得できる資格

- (1) 技能照査(学科、実技試験)合格者には、合格証書および技能士補の称号が東京都知事授与されます。
- (2) 合格証書により技能検定 2 級(国家試験)の学科試験の免除されます。
- (3) 東京都 1 種公害防止管理者の資格が取得できます。
- (4) 特定化学物質等作業主任者および有機溶剤作業主任者の資格が取得できます。
- (5) 粉じん作業の特別教育修了証(受講者)が交付されます。

その他、自社の品質管理や生産管理、また技術改善等に必要の場合は、本校の各種試験器具や測定機器類の利用(有料)等、他数々の特典があります。

募集概要

募集科目 金属表面処理系めっき科
募集人員 40 名(先着順による)
訓練期間 1 年間(平成 17 年 4 月～18 年 3 月)
訓練日時 毎週 火、金曜日(午後 2 時～8 時 00 分
但し実技は 8 時 30 分、特別科目は 9 時 20 分まで)
入校資格 高卒以上または同程度の学力のある方
費用 年額 346,100 円
費用納入は入校時、6 月末、9 月末、12 月末の 4 回に分納します。
募集期間 平成 16 年 12 月～17 年 3 月
その他 訓練校の主旨に賛同いただけた方であれば資格は特に問いません。
申込順に授業に支障をきたさない範囲で許可します。
聴講制度があります。聴講料は有料です。

国内留学制度

東京都以外の道府県に所在するめっき事業所に勤めていて通学が困難な方やめっき会社に勤めていないが、めっき技術を学びたい方のために、当訓練校で修学する便宜(東京の組合員事業所に勤務するなど)をはかる制度です。

無料一日体験入学

入校を検討中だが、カリキュラムの内容や校内の雰囲気を知りたいと希望される方の為の 1 日体験入校制度です。学科カリキュラムの説明を受けたり、授業参観することで 1 年間の教育訓練の内容が分かります。個別のご相談もお受け

特別区への事務移譲について

東京都福祉保健局健康安全室から 12 月 6 日付、特別区への事務移譲について次のような通知をいただいた。

東京都では、平成 12 年 4 月の地方分権一括法の施行を期に地方分権の推進を図るために、都と区市町村の役割分担の明確化、都から区市町村への事務・権限委譲等を検討し、

事務・権限の移譲を具体的に提案する「第二次東京都地方分権推進計画」を平成 12 年 8 月に策定し、順次、計画に基づく事務・権限委譲を行っている。薬事関係の薬局開設許可事務等につきましても、住民に身近な行政は住民に身近な地方自治体で行うという地方分権の理念に基づき、特別区への事務移譲に向けた検討、調整を進めて、本年 5 月に特別区との調整が終了し、平成 16 年第三回東京都議会定例会において「特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例」の改正(平成 17 年 4 月 1 日施行)が議決された。これによりまして、現在、特別区での窓口業務が円滑に行われるよう、特別区と都で事務移譲に向けた準備を行っている。平成 17 年 4 月 1 日から薬事関係の窓口が各区に移譲される。

毒物及び劇物取締法に基づく事務

- 1.業務上取扱者の届出の受理(法第 22 条第 1 項)
- 2.制令の施行により業務上取扱者に該当することとなった者の届出の受理(法第 22 条第 2 項)
- 3.業務上取扱者の廃止及び変更の届出の受理(法第 22 条第 3 項)
- 4.業務上取扱者の取扱責任者の設置及び変更の届出の受理(法第 22 条第 4 項において準用する法第 7 条第 3 項)

5.業務上取扱者に対する回収等に必要な措置の命令(法第 22 条第 4 項において準用法 15 条の 3)

6.業務上取扱者からの報告の徴収、立入検査等(法第 22 条第 4 項及び第 5 項において準用する法 17 条第 2 項)

7.業務上取扱者の毒物劇物取扱責任者の変更命令(法第 22 条第 4 項及において準用する法第 19 条第 3)

8.業務上取扱者の規定違反に対する干ような措置の命令(法第 22 条第 6 項)

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

吉崎周良様 (西部支部・(株)吉崎メッキ化工所会長、組合相談役) 昨年 12 月 19 日午前 2 時 22 分肺炎による心不全のため



め死去、93 歳。告別式は 23 日午前 10 時 30 分から三鷹市下連雀の霊泉斎場(三鷹禅林寺)で行われた。葬儀委員長は川合誠一氏。喪主は一絃氏

木村チヨ様 (城南支部・木村鍍金工業(株)木村秀利社長のご母堂) 昨年 12 月 20 日午前 11 時 45 分肺炎のため死去、93 歳。告別式は 25 日午前 10 時から西五反田の桐ヶ谷斎場で行われた。葬儀委員長は大村功作氏。喪主は秀利氏。

笠井キヨ子様 (葛飾支部・笠井鍍金工業笠井茂忠社長の令夫人) 昨年 12 月 22 日午後 3 時 33 分死去、63 歳。告別式は 26 日午前 11 時から四つ木の善福院会館で行われた。喪主は茂忠氏。

「ヴェトナムの街から」その2

(木村広報委員長のヴェトナム企業調査に同行して)

矢部賢(矢部技術事務所)

宿から僅かな距離にあった「戦争証跡博物館」を訪ねた 2 日目の街は土曜日の賑わいである。博物館の暗い影をよそに、大統領官邸跡の広場は、何やら催し物の舞台造りに忙しい。先輩諸氏に注意されてはいたが、気を張って向かって行かないと、バイクの流れを横切るタイミングが難しい。交差点とて右折左折の流れを断ち切れないのである。その街角で、バイクを傍らに、たむろする貧しい身なりの男達の多さにも驚く。彼等の全てが客を後ろに乗せて走るタクシーであり、これからのヴェトナムを占う潜在的失業者であることを忘れてはなるまい。

矛盾だらけの街を抱えたヴェトナムは好況が続き、国の計画投資省の記録によれば外資企業の売上(石油・ガスを除く)は、04 年年初より 8 月迄に前年比 34%増の約 110 億ドル(1 兆 2 千億円)、輸出額は 34.5%増の 69 億ドルに達する見込みであり、外資企業の納税額は約 5 億ドルに加え、71 万 8 千人の雇用創出(約 11%増)を生んでいると報告される。

庶民の足として有名なバイクは、外資系の販売会社で 04 年初頭より 7 ヶ月でホンダの 32 万 6 千台を筆頭に VMEP、ヤマハ、スズキの順に 68 万 9 千台も売れたという。

ハノイとホーチミン市では、ここ 1~2 年で乗用車の人気も急上昇したが、さすがに数億ドン(数百万円)の車を誰もが買えるわけではない。やっと銀行が自動車ローンを組むようになったが、限度額は購入額の 50~60%程度、しかも最長の 3 年間で 1 億ドン(75 万円)もの利息が付くのである。自動車販売店が銀行を紹介するシステムであって、例えばハノイのトヨタ合弁会社は毎日 10 人程度の客と契約していると、現地の日系ニュースが報じている。



(ヴェトナムの街中)

午後に予定された現地企業の見学にも、先述の K・ヴェトナム社からパジェロが差し向けられた。運転手に、どうにかマクダネルの店を探して貰い、共にお昼を済ませ、バイクの修理屋や工具店・雑貨屋、道路一杯に拵げためし屋など、雑然とした街を抜け、やっとの思いで有料道路に出た。

車が通行料を払う窓口と、その切符を受け取るゲートが別であるのも珍しい。面倒臭いが、料金の不払いや不正収受の予防策という。前後に続くのはやはり日系車種が目立つが韓国車も少なくない。ホーチミンを北へ、木村社長が「チンさん」と呼んで 8 年前から昵懇な中国系ヴェトナム人の工場へ急いだ。

1919 年ヴェルサイユ条約締結に活躍した頃のホー・チー・ミンはかつてグエン・アイ・コックと呼ばれたが、阮愛国と書く。何処かで日本語と繋がるのだが、アルファベッ

トで言っているベトナム語の発音は難しい。訪ねた先はディアン・ビン・ドゥオンと読める郊外の街に開発されたDAPARK工業団地である。

塀一杯の門標には、左からTINH・CONG、右から精工電鍍と飾られている。歴史はまだ浅く、1994年に市内で創業し、1年少々前にここに新工場を建設したという。丸顔一杯の笑いが社長の迎えである。名刺に莊慶、トン・ジャム・ドクと記されている。往年、巨大な円筒形の蒸着装置で、大変な量のプラスチック製品をめっきして居て、木村社長を驚かせた人である。

台湾生まれのベトナム育ち、留学してアメリカ国籍をとったという変わった経歴の持ち主だった。

約6千㎡の敷地に広がるめっき工場は、鉄骨平屋建て、長さ80m巾20m、高さは低いところでも6mを超える。隣に50×20m程度の研磨や治具の工場が続き、細々とした説明を加えながら自ら案内して頂いた。

BVQIによってISO9001の認証を受けたばかり、鉄鋼部品が多く、シアン浴をジーンケットに転用テスト中という亜鉛めっき、銅

－ニッケル－クロム、いずれも規模は大きい。ホイス式半自動ラインである。クロメートも既に3価の化成処理に転換されつつあり、サテン・ニッケルは台湾製の添加剤である。ステンレスにストライク・ニッケルを施して硫酸銅めっきを行うなど、ドイツ向けという技量もある。

途上国ではとかく問題が多いひっかけ治具を自作し、ゾルコーティングまで施す。集塵機のない研磨場では20名ばかりの作業員が真っ黒になって、バイクの部品を磨いていた。めっき製品の過半数が、街に溢れるホンダやヤマハのパーツだと言われる。

従業員数は2百名、午前6時午後6時交替の12時間勤務、2直のフル操業であり、失礼ながら伺った年商が150から200万USドル、月に1800万円は下るまい。電気代が月1万5千ドル(約170万円)も経るとこぼされたが、1人当たりの売上が約10万円、日本の1/10とは言え、物価・人件費からすれば、専業者として立派である。因みに各ラインに1人宛と言われる技術者8人の賃金は、それぞれ月150ドル(1万7千円)、作業員はその半分、中国の半ばに達しない。ただし、そ



(精工電鍍の視察)

れでもまだ良い方で、後で聞かされた公務員の給与が 35 乃至 44 ドル/月、兵制は定かでないが、命懸けの兵隊の月給が僅か 5 万ドン、350 円と言う。赤紙一枚で召集された 60 年前の日本である。

社長によれば、創業の 94 年以降 10 年でホーチミン市のめっき業者は零細を含め百社を超えたが、工業的な規模の業者は十乃至十五社、まだまだ増えるだろうと・・・。孤軍奮闘ながら、これからを語る社長に年を伺えば、1 男 1 女の父、既に 62 才である。改めて童顔を見直した。

荘社長(チンさん)は、工場に対する忌憚の無い意見を聞きたいという。電話 1 本で何でも揃う私達から見れば、今のヴェトナム現地企業として、2 輪車を中心に急激な膨張を続ける需要を、乏しい機材を駆使し、できるだけ自社で治具や設備を整え、旧式ではあるが整流器・ろ過機を完備し、不十分ながらも品質管理の測定器、浴管理の分析機器を備え、何とか外資系進出企業の期待にも応えようとする努力には、敬意以外に言葉があろう筈はない。浴の補給や製品の洗浄に必要な用水も RO-DI の二段階で精製し、日量 80 立米に達する排水の処理施設、スラッジ処理にも遺漏はない。

もともとが、先に訪れた K・ヴェトナムの協力工場でもある。それでもと助言を求められて、めっき設備毎に区画されたコンクリート床が、築 1 年にしては、無惨に砂利が露出している。「何とかプラスチック床加工の手当はできないか?」機材の調査を提案するに止めた。

僅か 3 泊の滞在で何かが解ろう筈もないが、1 つでも多くのヴェトナムを見せたいと K 工業役員の肝煎りが嬉しい。初日には帰りの時間に無理を承知で、ホーチミン市の西北 20 数キロに位置する、ヴェトナム戦争で有名な激戦地クチのトンネルを覗いて来いと、運転手を付けてパジェロが与えられた。既に

多くが語られ、戦跡は見るだけ、歩くだけで、何の説明も必要はない。以前にも訪れたことのある木村社長と目で語りながら、ドイツ、アメリカなどの若者と戦争を知らない世代の案内人に従って、林の中の蟻塚と、まさにその蟻の穴のような地底の迷路を泥にまみれ、枯れ葉を踏み鳴らして彷徨った。至るところに藪と木々に覆われた何の変哲もない窪地がある。30 年前は一つ一つ全てが爆撃でえぐられた赤土の穴であり、墓穴であった。60 年前、散々な目に遇った 5 百 kg・1 トンの爆弾の破壊力は説明を待つまでもない。あの第 2 次大戦の使用量を遙かに超える爆弾が、日本の 9 割の面積に豪雨のように降り注ぎ、百数十万の民衆が死んだのである。なおも隠れる住民を焼き出し、飢えさせるため枯れ葉剤も撒かれたという。

自分の腰回り程もない入口から穴に潜り、枯れ葉を被っておどける観光客も案内する者にも、その地獄を見た年輩は、もう一人もいない。

3 日目の早朝は、夜行便に乗るまでの 1 日を、O 役員推奨のメコン河ツアーに費やそうと宿を出た。ショロンの案内所の前は日曜日とあって各方面に向かうバスの客がひしめいている。鉄道はめったに列車の見られない幹線のみで、当てにされないのか? バスが最も安いのか? メコンデルタからさらに西のカンポジアへ、東のピエンホア、南のブンタオへ、大きなリュックを担いだ様々な国の若者や家族連れが、店の前に次々と到着するバスに乗って行くのである。定刻ぎりぎりまで路上で待たされ、切符を確かめ、オーパブッキングのツアー客は別仕立てのマイクロバスに詰められて出発する。とぎれがちなヴェトナム英語を頼りに、2 時間足らずを年代物のバスに揺られ、メコンに向かうのである。道中には町らしい町もない。この辺りの年間雨量は 2 千^ミ、米作 4 百万^{ドル}はタイに次ぐと言うが、4 毛作までできる田圃は、野原か沼地か区別

が付かない。やがて、ホーチミン西南 50 軒、メコンに望むミトの街に入った。

船着場へ、やっとバスが入る道一杯に「くさや」を凌ぐ臭気が漂う。ニュクマムと言う魚醤の臭いである。パスの一团には顔をしかめて我慢する日本娘の姿も見えた。

船着場の前に広がるメコンは、デルタで大きく 3 本に分かれた東端の 1 本で、河巾 4 km と説明にあるが、緑の森に覆われた対岸は、これから渡る中州だと言う。引き潮なのだろうか？ どんす黒いほてい葵の群落を浮かべた茶色の流れは意外に速い。地図を見ればミトは河口から 50 軒も上流なのに潮の満ち干で棧橋の高さもかなり変わるのだと…。

虫眼鏡で世界地図のメコンを辿れば、ヒマラヤの裏側・チベット高原の東から、ざっと四千軒をうねうねと、ここまで流れて来た大河なのである。

バスツアーの一团は 30 人足らずに二分され、一応、人数を数えて川船に乘せられる。救命胴衣は見あたらない。この船のエンジンも大型ジーゼル車が残した物だろう、轟音と共に濁流を遡って行く。中州に渡り、林を抜け、荒削りの柱に高床の素朴なレストランに入って、思い思いに昼飯である。注文の鋭い

ひれに囲まれた白身魚の唐揚げが出てきた。力づくにナイフとフォークで崩し、例のニュクマムをかけるとなかなかの味である。覗き込む同舟の日本娘に取り分けて、ヴェトナム米に乗せると、「おいしい」と喜んでた。お世辞だとは思ったが、この手の OG にはヴェトナムが最も人気が高いそうであるが、世と言う「平和惚け」云々

とは全く関係なさそうである。

午後は、再び船で対岸に渡り、さらに小舟に分乗して、ガジュマルと椰子に覆われた迷路のようなクリークを遡り、土産物屋で椰子の汁を煮詰めた飴をなめ、胴回り 50cm を超える錦蛇を担ぎ、カヌーを漕ぎ、メコンの人々のお手伝いをしたのである。帰途に見る河の浅瀬には、裸の若者が濁った水に潜り、至るところに簡単な巣立ての網を張って魚を捕り、岸壁の魚市場には漁船がひしめき、海産か淡水産か定かでないが、大変な量の魚を水揚げし、かご詰めに忙しい。

ほんの取り付け口から眺めても、河の上手には既に巨大な橋脚の工事が始まり、急激に肥沃なメコンデルタの開発が進んでいるように見える。我々には阿片や大麻しか知られていない黄金の三角地帯と呼ばれるこの辺りから、さらにカンボジアに向かって、またラオスへのメコンを遡って、緑の溢れる肥沃な土地と未開の人々が「豊かさ」への夜明けを待っている。この地帯がタイを凌ぎ、中国を超える世界の穀倉地帯になる願いは既に彼等の胸中にあるに違いない。

(この項終わり)



(高床式レストラン)

平和工業(株)

不要となったプラめっき製品のリサイクルシステム導入

大田支部の平和工業(株)(内藤雅文社長)は、プラスチック製品の金型製作、成形、めっきの一貫生産を行っているが、今般、不要となったプラめっき製品を樹脂と金属とに分離・回収し、各々をリサイクルするシステムを導入、昨年 11 月に完成、稼動を開始した。

本リサイクルシステムでは樹脂の劣化を招く薬品を一切使用していない。まず破碎機に投入されたプラめっき製品が低速で噛み砕かれ 20mm 角程度のチップになる。チップは空気輸送により微粉碎機へ送られ、高速で回転する多段ローターの刃物による微粉碎後、粒径は 0.8mm となる。その過程で樹脂と金属が分離され、更に磁力選別機により樹脂と金属とに分別されて回収される。樹脂分は、ほぼ完全にめっきが除去されて回収される。それを押し出し機で再生ペレットとして取り出す。

現在、第三者機関においてリサイクルし

た樹脂の物性試験を実施中であり、再使用については全く問題ない、との中間報告を受けている。また金属分は山元に還元する。

本リサイクルシステムは付帯工事を含めて、投資額 1 億円。

「これまで不要となったプラめっき製品は、破碎後、埋立て処分や海外での処理に依存していた。ISO14001 を認証取得し、環境問題に積極的に取り組んでいる当社にとって本リサイクルシステムは、コスト削減をも実現できる優れた環境負荷軽減システムである」と内藤専務。

同社は京浜島の中央鍍金工業団地内に本社及びプラめっき工場、更に同島に成形、金型、リサイクルの各工場を有する他、大田区東糀谷の城南電化協同組合内にもプラめっき工場を稼働させている。成形工場にはガスアシスト可能な大小 15 台の成形機を有し、精度の高い製品の成形を行っている。





明けましておめでとうございます



株式会社 都南ビーピー 代表取締役 大村 功作 本社 東京都目黒区上目黒4-5-1 工場 東京都目黒区上目黒2-45-12 〒153-0051 TEL 03(3719)8221 FAX 03(3760)9027	京王電化工業株式会社 代表取締役 姫野 正弘 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘3-6-1 TEL 0424(83)1900
株式会社 協和 代表取締役社長 由田 猛 本社 東京都豊島区東池袋1丁目7番12号(日産ビル) 〒170-0013 TEL03(3986)1591(代) FAX03(3988)8923 工場 高崎第1・高崎第2・川越・シンガポール マレーシア・タイ・中国	合資会社東亜鍍金工場 代表社員 川上 洋一 〒146-0093 東京都大田区矢口2丁目32番7号 TEL 03(3759)3446(代)~8 FAX 03(3759)3448
株式会社 入谷電鍍所 代表取締役社長 間部健太郎 〒110-0012 東京都台東区竜泉1丁目9番3号 TEL 03(3875)6146(代) FAX 03(3875)6149	八幡鍍金工業株式会社 代表取締役 八幡 順一 本社 東京都江戸川区平井5丁目20番9号 〒132-0035 TEL03(3617)7707 FAX03(3617)7709 篠崎工場 東京都江戸川区篠崎町3丁目33番11号 〒133-0061 TEL03(3670)2120 FAX03(3670)2062
有限会社 朝日鍍金工場 代表取締役 遠藤 清 専務取締役 遠藤清孝 〒132-0025 東京都江戸川区松江4-20-11 TEL 03(3653)3431 FAX 03(3652)2225	有限会社 元井鍍金工場 代表取締役 元井 民夫 〒171-0044 東京都豊島区千早2丁目37番4号 TEL 03(3973)0056(代) 03(3973)0057~8 FAX 03(3974)7324
木村鍍金工業株式会社 代表取締役 木村 秀利 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-12-3 TEL 03(3491)7653 FAX 03(3491)4074	株式会社 歓 鍍 金 代表取締役 中澤 敏明 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-34-2 TEL 03(3441)4910 FAX 03(3441)4640



明けましておめでとうございます



 株式会社 トーテック 代表取締役 小谷野 英勝 本 社 東京都目黒区下目黒2丁目13番7号 〒153-0064 TEL03(3493)0231 FAX03(3779)5296 千葉事業所 千葉県香取郡東庄町宮野台1-50 東庄工業団地 〒289-0623 TEL0478(87)1120 FAX0478(87)1018	藤田鍍金工業株式会社 代表取締役 藤田 直人 〒140-0004 東京都品川区南品川4-17-16 TEL03(3474)3563 FAX03(3474)3548
有限会社 伊豆鍍金工業所 取締役 原 清一 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-5-1 TEL03(3493)0308(代) FAX03(3491)8795	平和工業株式会社 代表取締役 内藤 雅文 本 社 東京都大田区京浜島2丁目2番4号 〒143-0003 TEL03(3790)1031(代) FAX03(3790)2828
株式会社 池田車框製作所 代表取締役 池田 潤一 〒143-0003 東京都大田区京浜島2-2-5 TEL03(3790)2222 FAX03(3799)3399	 有限会社大森広尾鍍金工場 専務取締役 志田 和陽 〒143-0014 東京都大田区大森中1丁目11番5号 TEL03(3761)4946 FAX03(3761)4991
株式会社 篠根鍍金 代表取締役 篠根 健一 本 社 東京都荒川区東尾久2丁目9番1号 〒116-0012 TEL&FAX03(3895)1759 工 場 埼玉県草加市稻荷2丁目12番6号 〒340-0003 TEL0489(31)7675 FAX0489(31)2407	有限会社 平野メッキ工場 代表取締役 平野普三雄 〒116-0012 東京都荒川区東尾久2-3-7 TEL03(3895)5902 FAX03(3809)1966 三郷工場 埼玉県三郷市彦江1-71-1 〒341-0058 TEL048(953)2301 FAX048(953)2302
有限会社 上原メッキ工業 代表取締役 上原 裕司 〒334-0063 埼玉県川口市東本郷764-8 TEL048-282-1590 FAX048-282-3567 E-mail:hirosiu@muh.biglobe.ne.jp	有限会社富士友工業所 ＝貴金属メッキ各種＝ 代表取締役 下平 誠 〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目33番10号 TEL03(3872)4781 FAX03(3871)5959



明けましておめでとうございます



株式会社小嶋メッキ工業所 代表取締役社長 小嶋 摂郎 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5丁目10番10号 TEL03(3851)5870(代) FAX03(3851)5882	株式会社 梅田鍍金工業所 代表取締役 永田 一雄 〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1 TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530 k-nagata@courante.plala.or.jp
株式会社八神化学工業所 代表取締役社長 永田 吉輝 〒123-0856 東京都足立区本木西町8-25 TEL03(3890)4236 FAX03(3890)4238	東京都鍍金工業組合 足立支部 常任理事 小澤 栄男 支 部 長 永田 一雄 副支部長 細井 碧 副支部長 石川 和男 副支部長 橋本 英雄 副支部長 磯村 博明 〒123-0851 東京都足立区梅田3-16-1(株梅田鍍金工業所内) TEL03(3880)1271 FAX03(3889)8530
太田鍍金工業株式会社 代表取締役 太田 夢一 〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-10-17 TEL03(3692)4560 FAX03(3693)0020	神谷電化工業株式会社 代表取締役 神谷 博行 〒124-0012 東京都葛飾区立石2-18-8 TEL03(3695)1304 FAX03(3695)1346
光陽鍍金株式会社 代表取締役 菊池 忠男 〒124-0001 東京都葛飾区小菅3-15-11 TEL03(3602)6815 FAX03(3603)1718	大日工業株式会社 代表取締役 小倉 攻一 〒124-0011 東京都葛飾区四つ木5-16-11 TEL03(3691)9501 FAX03(3691)9504
株式会社 ヒキフネ 株式会社 ヒキフネ技研 取締役会長 石川進造 代表取締役社長 石川輝夫 〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-4-12 TEL03(3696)1981 FAX03(3696)4511 http://www.hikifune.com	有限会社 亜鉛鍍金工業西谷 回転アエンメッキ専門 代表取締役 西谷 幸一 〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5丁目26番6号 TEL03(3697)1484 FAX03(3697)3593



明けましておめでとうございます



東京都鍍金工業組合 向島支部 支 部 長 石田 昌久 副支部長 仲俣 雅行 副支部長 向坪 昭 副支部長 大場 章司 副支部長 深田 稔 役員 一同 〒131-0043 東京都墨田区立花5-17-17 TEL03(3617)5779 FAX03(3614)5653	株式会社 進光舎鍍金 代表取締役 池田 敏則 〒131-0041 東京都墨田区八広4-42-7 TEL03(3612)6975 FAX03(3612)6945
新東 株式会社 代表取締役 石田 昌久 〒131-0043 東京都墨田区立花5-8-2 TEL03(3611)8251 FAX03(3617)7102 Eメール:Shinto@mekki.co.jp URL:http://www.mekki.co.jp	東京都鍍金工業組合 本所支部 支 部 長 山田英佐夫 副支部長 岡本 博司 副支部長 在間 茂夫 副支部長 酒巻 正明 副支部長 横山 昇 役員 一同 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9(株東電工舎) TEL03(3622)8111 FAX03(3622)8107
有限会社半田鍍金工業所 代表取締役 半田 實 〒189-0011 東京都東村山市恩多町5-43-14 TEL042(393)0960 FAX042(398)1977	東京都鍍金工業組合 西部支部 支 部 長 西原敬一 副支部長 柴 太 役員一同 〒184-0004 東京都小金井市本町1-7-1SSビル TEL042(384)4718 FAX042(382)8195
高砂電鍍工業株式会社 代表取締役 高村 昌利 〒187-0032 東京都小平市小川町2-1972 TEL042(341)3380 FAX042(343)4582 URL:http://www.takasagodento.com	ニシハラ理工株式会社 代表取締役 西原 敬一 本社・武蔵村山工場 東京都武蔵村山市伊奈平2-1-1 〒208-0023 TEL042(560)4011 FAX042(560)4044 狭山工場 埼玉県入間市狭山ヶ原108 〒358-0032 TEL042(934)6116 FAX042(934)4640 佐賀工場 佐賀県三養基郡上峰町堤2100-34 〒849-0124 TEL0952(53)1215 FAX0952(53)1210
株式会社精密電化工業所 代表取締役社長 大内 源司 代表取締役専務 西村 福司 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-2-27 TEL042(541)2250 FAX042(541)0894	 株式会社 杉並化学 代表取締役 角田 洋久 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野2-9-9 TEL042(544)1578 FAX042(544)3415



明けましておめでとうございます



東京都鍍金工業組合 亜鉛めっき部会

会 長 菊池 忠男
副会長 遠藤 清
副会長 半田 實
副会長 中村 昭人
副会長 内山 昇
役員 一同

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-11-10
TEL03(3814)5621 FAX03(3816)6166

株式会社 吉崎メッキ化工所

代表取締役 吉崎 一紘

〒190-0033 東京都立川市一番町 4-73-3

TEL 042(531)1242

FAX 042(531)6734

<http://www.yoshizaki-mekki.co.jp>

info@yoshizaki-mekki.co.jp

城東支部長遠藤清孝氏が結婚

城東支部長の遠藤清孝氏((有)朝日鍍金工場専務)が、竹部とも子さんと、昨年12月19日(日)午後1時半から、文京区の椿山荘で華燭の典を挙げた。

披露宴は十日会・前会長の菊地利博氏の司会により、はじめに新郎新婦のプロフィールについて「遠藤清孝氏は1954年8月12日生れ。都立向丘高校を卒業後、日本大学理工学部工業化学科卒業。その後会社勤務を経て、朝日鍍金工場に入社、96年に専務取締役になり、93年アサヒメックスの代表取締役に就任。趣味はゴルフ、旅行、油絵、将棋。

竹部とも子さんは1976年4月17日生れ。滝野川女子学園高校を卒業後、武蔵野音楽大学音楽学部器楽科(トランペット専攻)を卒業。トランペットは小学校四年の時クラブ活動で始め、6年生で海保泉先生と出会い、本格的にレッスンを受ける。02年朝日鍍金工場入社。04年9月結婚のため退社。趣味はピアノ、絵画鑑賞、スキー、ゴルフ」等紹介された。遠藤清孝氏の挨拶の後、内外ハイグラス(株)竹ヶ原社長の音頭で乾杯。ドラマー籠利達郎氏のバンド演奏が披露宴を盛り上げた。

スピーチでは、新郎側の東京都鍍金工業組合大村功作理事長、十日会歴代会長からお祝いの言葉。新婦側のスピーチのあと音大時代の仲間がトランペット四重奏を、また籠利氏のドラムとのジョイントも行われた。最後に新郎新婦が互いの両親に花束を贈呈、最後に遠藤清社長が謝辞を述べた。



つま
恋坂

才 能

小島一浩(足立支部)



皆さんは「才能」について、深く考えたことがありますか。まあ、別に深く考えたことがなくても、自分には〇〇の才能がないとか、あいつには〇〇の才能があるといったことくらいは考えたことがあるでしょう。

さて、あらゆる分野で努力なしで成功する人はほとんどいないでしょう。中には努力なしで成功してしまう人もいるでしょうけど……。そういう人は才能だけで成功しているのではないかと思うのです。しかし、ほとんどの人はまず努力なしでは成功できないでしょう。ところが、努力すれば必ず成功するとはかぎらないと思うのです。いちばん顕著な例がスポーツ選手ではないでしょうか。例えば、野球ではイチロー選手、松井秀喜選手、松坂大輔選手、古くは長嶋茂雄氏や王貞治氏、ゴルフではジャックニクラウス、タイガーウッズ、その他オリンピックの金メダリスト等、彼らは血のにじむような努力プラス才能で超一流の地位を築いたのです。これに対し、彼らに負けなくらい努力している人もたくさんいるはずですが、残念ながら才能(素質)が足りないがために一流になれないのだと思います。

以前、ある本に「努力あるいは訓練をすれば必ずオリンピック選手になれるとはいえない」といった内容の文章がありました。うーん、なるほどと思いました。しかし、努力を怠っても良いという言葉はありませんでした。そこで筆者は、一流になれなくとも、努力を怠ったら二流、三流以下に落ちてしまうという事にあらためて気づいたのです。そんな事当たり前だという読者がほとんどでしょうが、あらためて考えてみてください。どこかの国の総理大臣風に言えば、「努力なくして成功なし」という事が言えると思うのです。

とりとめのない文章で読者の方には苦痛を与えたかも知れませんが、最後に一言、「広報委員として私は文才が欲しい！」



表面処理技術

(日刊工業新聞 04.12.10)

表面処理には防錆や防食、耐摩耗性、耐熱性、装飾性などの機能が要求される。こうしたさまざまな特性を付与することによって、多くの工業製品は高品質化、高機能化を実現する。リサイクル性と軽さからここ数年、パソコンや携帯電話などに利用が広がったマグネシウム合金は、かつて耐食性で劣っていたが「真空蒸着」技術によって耐食性が改善した良い例だ。このように表面処理技術は工業製品を実用化する際、材料により優れた付加価値をつけるための欠かすことが出来ない技術と言えるだろう。

携帯電話や自動車、パソコンなど一生活に必要なほとんどすべてのものに施されている表面処理の代表格である「めっき」技術。従来は耐食、装飾目的が主流であったが、今では電気的特性や光学的特性、熱的特性など優れた機能を主張する「機能めっき」が幅広い分野で活用されている。ここ数年、めっき業界で盛んな動きを見せているのが、六価クロムを地球に優しい三価クロムに代替するというような環境に配慮した技術の開発や採用だ。欧州連合(EU)が交付した廃棄自動車に関する指令(ELV)や、廃棄電気電子機器に関する指令(WEEE)、電気電子機器中の特定有害物質の使用制限に関する指令(RoHS)などにに基づき、めっきから環境負荷物質をなくす動きが急ピッチで進められている。「溶射」技術は、材料を加熱し溶融状態で、基材に吹き付けて被膜をつくる処理技術。鉄鋼構造物やプラントの防錆、防食、各種ロールの耐摩耗性などに利用されており、また「コールドスプレ

イ」や「電熱爆発粉体溶射」といった新しい溶射技術の開発も進んでいる。「焼き入れ」などの一般熱処理や表面硬化処理に不可欠な「真空熱処理」技術。これは材料に光輝を与え、さらに処理物の表面が活性化しているので次工程でセラミックス膜をコーティングする際でも密着性が高いのが特徴だ。一方、表面硬化処理技術において、化学的、物理的手法を用いる「CVD 法」や「PVD 法」などは現在、金型寿命を向上させる手法として欠かすことの出来ない技術。CVD 法には「熱 CVD」や「プラズマ CVD」、「光 CVD」、PVD 法には真空蒸着や「イオンプレーティング」、「スパッタリング」などがある。

第 22 回中堅・中小企業優秀経営者顕彰

(日刊工業新聞 04.12.16)

日刊工業新聞社が中堅・中小企業の優れた経営者を表彰する「優秀経営者顕彰制度」の第 22 回受賞者 20 人が決まりました。この制度はわが国産業、地域社会の発展に大きく貢献した中堅・中小企業経営者を広く顕彰し、中堅・中小企業の一層の飛躍を図っていくものです。贈呈式は 05 年 1 月 17 日(月)に東京・飯田橋のホテルグランドパレスで行い、各賞の受賞者に日刊工業新聞社から表彰盾と副賞が贈られます。

優秀創業者賞 日本フィルター会長 橋本康彦氏 授賞理由:55 年(昭 30)にメッキ液用精密の専門メーカーとして創業。メッキ用精密機器では国内シェアの 70%を占めるトップメーカーにまで育て上げた。04 年 9 月期には売上高 29 億 8800 万円、経常利益 6 億 5100 万円を計上。無借金経営を貫き、自己資本比率も 84.6%を上げるなど、堅実な経営方針を実践している。＜喜びの言葉＞これまでに藍綬褒章、勲五等双光旭日章をそれぞれ受章しておりますが、今回は、自分がつくりあげた会社を社会的に評

価していただいたの受賞ということで、大変うれしい。05年には創業50周年を迎えます。これを節目にこの12経営者にボタンタッチ。会長に就任しました。今後も創業者として皆様のお役に立つ会社づくりを手伝っていきたく考えています。

ものづくり人材育成

(日刊工業新聞 04.12.17)

東京都教育委員会は16日、都立工業高等専門学校、都立航空工業高等専門学校を再編統合し、企業や都民の新たなニーズに応える高等教育機関とするなど、「高専改革検討委員会報告書」をまとめた。新高専は「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくり人材の育成」を使命とし、専攻科と本科の2科制で、16歳からの9年間の実践的技術者教育を行う。企業との共同研究や産業技術大学院や試験研究機関とも連携し東京のものづくり産業の基盤強化を支援すべきだと提言している。開校06年4月。

大阪府大が金薄膜形成技術

(日刊工業新聞 04.12.27)

大阪府立大学先端科学研究所の長岡勉教授、椎木弘助手らは、金ナノ粒子と架橋分子(チオール分子)を含む室温の溶液にプラスチック基板を浸し攪拌する簡便な金薄膜形成技術を開発した。膜厚は金ナノ粒子径に一致し、膜厚は同じ操作を繰り返したり、粒子径を変えることで数ナノメートルからマイクロメートル以上まで制御できる。チオール分子の長さを変えると薄膜の電気抵抗を制御できる。ナノギャップを持つ高感度センサー電極などへの応用が期待でき、蛍光標識を必要としない安価なデオキシリボ核酸(DNA)チップ作製や1塩基多型(SNP)の検出などに役立つ。

欧州規制の六価クロム不使用

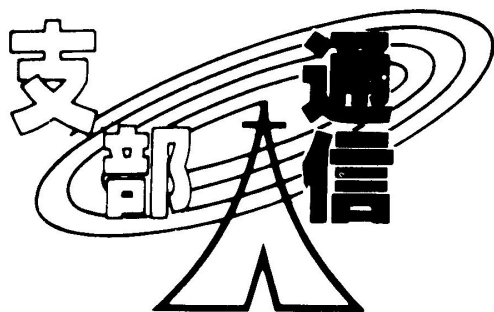
(フジサンケイ ビジネスアイ 04.12.28)

住友金属工業は、IC(集積回路)から発生する電磁波を吸収するとともに放熱性が高い導電性放熱銅板を開発、家電やIT(情報技術)機器向けに拡販する。すでに松下電器産業が、次期モデルのプラズマテレビのバックパネル用に採用を決めている。従来、導電性を高めるには六価クロムを用いるのが普通だったが、その場合は放熱性が低下するほか、人体に有害な重金属類の使用を制限する欧州規制で2006年から使用できなくなる。住友金属は顔料を配合して導電性と吸熱性を高めた特殊皮膜と熱放射性感皮膜を開発した。めっき銅板の内側に前者を、外側に後者を付着することで国内最高水準の放熱性能と導電性能を実現。

次世代メッキ技術を開発

(日刊工業新聞 05.1.17)

吉玉精鍍は電子部品や自動車部品などのメッキ加工を手がける。顧客が中国に生産をシフトするなど「景気回復といわれているが、中小企業は厳しい状況が続いている」(吉玉典生社長)。そこで、新しいメッキ技術の開発や環境対策を強化するなど「今後も延岡の地で長続きできる」(同)取り組みを進めている。仕事の7割は半導体など電子部品関連。半導体は微細化が進むと同時にBGA(平らなパッケージの裏面に入出力パッドを並べたもの)などリードレスタイプが増えている。九州大学などと共同で行う薄型SiP(システム・イン・パッケージ)積層実装技術の開発に参加、次世代技術の開発、習得に力を注いでいる。また、宮崎県内の企業では99年、先駆的に環境管理の国際規格であるISO14000の認証を取得した。「メッキは環境に対してマイナスのイメージがあるが、“そうではない”とPRしていく」(同)考えだ。



■足立支部

顧問相談役会

足立支部(永田一雄支部長)は 12 月 9 日(木)午後 6 時 30 分より西新井大師門前武蔵屋において、17 名が出席し顧問相談役会を開催した。

細井副支部長の司会により開会し、永田支部長より「本日は暮れの忙しい時期にもかかわらず多数の参加があり感謝申し上げます。今年は排水の暫定基準の延長や、当支部員の技能検定の参加など喜ばしい話題もあったが、依然として業界の景気は回復していない。来年も皆で力を合わせて良い年になるように祈念する」との挨拶があった。

次いで、永田吉輝顧問の乾杯の音頭で懇親会に移った。懇親会では参加者一人一人が技術的な相談支部に対する要望、今年一年の反省など話題が尽きることなくお開きの時間を迎えてしまった。最後に石川和男副支部長が中締め音頭をとり閉会した。

(右写真: 足立支部顧問相談役会)

■大田支部

忘年会

大田支部(志田和陽支部長)は 12 月 10 日(金)に大森の割烹「浜天」にて忘年会を行った。参加者は 24 名と例年に比べて多い人数となり、活気が感じられた。

午後 6 時 30 分に佐藤富幸事業部長の司会の発声により忘年会が開始され、志田支部長より今年一年を振り返っての話題とそれに続く来年への抱負・期待といった挨拶が行われた。続いて東京都鍍金工業組合・川上洋一副理事長より来賓の挨拶が述べられた。たまたま奇麗どころの登場が遅れていたこともあり、当組合全体が関係する環境問題についてかなりの時間を使つての挨拶となったが、環境問題を語らせたら右に出るものはいない? 川上副理事長のこと、参加された皆さんに時間の経過を感じさせることなく見事に終了。乾杯の準備が整った。長い時間をご苦労様でした。さっそく葛西康二副支部長による乾杯音頭の発声となり、開宴となった。「浜天」自慢の料理に舌鼓を打ちながらお酒の方も杯がすすんで、



自慢の喉を披露する人もあり、様々に楽しみながら宴たけなわとなっていた。中締めとして内藤雅文常任理事の三本締めめでたく「お開き」となった。(石川貞行)

■中央支部

歴代支部長会開く



さる12月30日恒例の歴代支部長会を開催した。例年通り浅草雷門前に6時に集まり観青様を参拝、一年を無事に過ごせた事に感謝のお参りをした。今年是小林徳雄氏が腰が痛いので欠席をしないと連絡があり、東松内山、小嶋の3名で開催した。

今年も昨年同様お参りの後、すしや通りの寿司初総本店にて食事の会を開いた。

小川元支部長の発案で始まったこの会も30年近く会が続けて来られたのも先輩諸氏の支部を思う気持ちの現れではないかと思い、これからも引

き続き会を開いて行こうとの話があり、また小嶋支部長より支部の現況報告があり、来年も今年以上の発展を祈願し、9時近くに散会した。

■足立鍍友会

忘年会

足立支部(永田一雄支部長)青年部組織の足立鍍友会(高橋利男会長)は12月18日(土)銀座アスター千住賓館において14名が出席し午後7時より忘年会を開催した。

冒頭高橋会長より「本日は暮れの忙しい中出席していただき感謝申し上げます。忘年会という事で楽しいひとときを過ごしていただきたい」との挨拶があった。続いて来賓として永田支部長より「若手が支部の運営に協力してくれる事に感謝申し上げます。こうして若手の中にいる事が年代の移り変わりを感じる。来年がますます良い年になるように」と挨拶し、来賓の足立支部松井会計による乾杯の音頭で懇親会に移った。和気あいあいとした雰囲気の中お開きの時間となり、磯村副支部長の中締めにより閉会した。(下の写真：足立鍍友会)



東京都中小企業の景況(12月調査)

東京都産業労働局商工部

◎都内中小企業の業況 DI は前月比 3 ポイント増加し、3 ヶ月連続の悪化が止まり、わずかに持ち直す動きとなった。ただし、製造業は6 ヶ月間改善のない状態が続く。前年同月比売上高 DI はやや改善。また、今後3 ヶ月の見通し DI は前月比 1 ポイント増とほぼ横ばいに推移し、慎重な見方が続く。

○11 月の都内中小企業の業況 DI は▲35(前月▲38)と 3 ヶ月連続の減少に歯止めがかかり、わずかに持ち直した。製造業は▲30 と連続の前月比 2 ポイント減になり、緩やかな減少続く。卸売業は▲37 と前月比 2 ポイント増、小売業は▲55 と前月比 8 ポイント増と、ともに 3 ヶ月連続の悪化が止まった。サービス業も▲24 と、前月に比べ 2 ポイント増加した。

○前年同月比の売上高 DI は▲32(前月▲34)と 2 ポイント増加し、前月の悪化分を戻した。業種別には、小売業が前月比 5 ポイント増、製造・卸売・サービス業が前月比 2 ポイント増となり、全業種で改善した。

○前月と比べた仕入価格 DI はわずかに増加、販売価格 DI はほぼ横ばいで推移した。製造業の仕入価格 DI は、全業種区分で 5 ヶ月連続のプラスとなり、上昇傾向が続いている。製商品在庫 DI は、小売業の「耐久消費財」で再び不足感が強まっている。

○当月と比べた今後 3 ヶ月(12~2 月)の業況見通し DI は▲19(前月▲20)とほぼ横ばいに推移し、引き続き慎重な見方をしている。製造・卸売・小売業は前月水準に比べ 3~4 ポイント増え、見方にやや明るさを増しているが、前月期待感が膨らんだサービス業の「個人関連」は大きく下げた。

編集後記

正月に年賀状を頂き、普段会う機会のない友人、知人の近況を楽しく拝見している。今年はパソコンの普及により、独自にカラフルに印刷したものが多くなっているが、少し工夫したものを作ろうと思うと、それなりに苦労しているのではないかと思う。暮れの年賀状作りは一仕事である。

ところで、今年の年賀はがきの売行きは、昨年に続いて前年比 4.5%下回ったという。携帯電話やインターネットの普及により年賀メールが増えたことや相次ぐ台風被害や地震災害から自粛ムードがあったのではないかとしている。

若い世代には電子年賀が流行るのかもしれないが、年配者にはどうもしっくりこないし、取組みにくい。これも時代の流れなのかもしれない。

組合本部の新年賀詞交歓会は各支部との

合同という形で、来賓と合わせて 400 名以上の出席を得て盛大に開かれた。組合挙げでの会合は平成元年の百周年記念以来のことで、支部内の懇親はもとより、各支部間の横の懇親も図られながら賑やかに盛況裡に進められた。

広報 1 月号

印刷 平成 17 年 1 月 15 日

発行 平成 17 年 1 月 15 日

(毎月 1 回 20 日発行 第 38 巻第 1 号)

発行所 東京都鍍金工業組合

〒113- 東京鍍金公害防止協同組合

0034 東京都文京区湯島 1-11-10

Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166

発行責任者 大村 功作

編集責任者 木村 秀利

印刷 スザキ企画 Tel047(338)1222

〒272-0802 市川市柏井町 2-1419-4

定価 500 円

けんぽのお知らせ

関東めっき健康保険組合
TEL 03-3813-5916

No. 58. 2005. 1

ウォーキングで血液サラサラ・ストレス発散！

いちばん身近で安全な運動、ウォーキングで日頃からの健康づくりをはじめてみませんか。ゆったりと根気よく、マイペースに生活の一部として行うことで、体力の増進や生活習慣病の予防など、健康な生活に深く結びつくさまざまな効果が期待できます。

☆☆ウォーキングの効果☆☆

- ①. 肥満解消…基礎代謝を高めてエネルギーを消費することで、肥満を解消。
- ②. 血液サラサラ…血液をサラサラにする善玉コレステロールは毎日歩く人ほど多いことがわかっています。
- ③. ストレス発散…適度な運動は自律神経のバランスをよくし、ストレスをため込まず上手に発散することができます。
- ④. 筋力アップ…複数の筋肉が使われることで、全身がひきしまりるほか、心身の活動が活発になり、心も体も元気になります。
- ⑤. 食欲増進…食欲増進効果があり、何でも良く食べ、元気に活動することで、エネルギーの消費効力もよくなります。
- ⑥. 内臓機能アップ…全身運動が、心臓や肺の動きを活発にし、全身の内臓の機能も強化されます。
- ⑦. 免疫力アップ…会話しながら出来る程度の運動が、体内に侵入した病原菌を退治する細菌の活動を活発にします。
- ⑧. 生活習慣病予防…有酸素運動を継続して行うことで、血液中の脂肪量や血圧などが調整され、生活習慣病にかかりにくくなります。



生活習慣病予防・改善の必要がある人が運動を始めるには、ご自身が安全で楽しくできる身体状況であるか知っておくことが大切です。年に1回は健康診断を受けてチェックし、場合によっては強度を下げたり、中止する勇気も大切です。

健康保険組合では、年に1回春にホリデーウォーキングを開催しています。ウォーキングに参加して歩ききっかけをつくってみてはいかがでしょうか。

ホリデーウォーキングにつきましては、機関紙「めっきけんぽ」3月号で詳しくお知らせする予定であります。